

令和4年度 社会福祉法人えどがわ評議員会・理事会

実施日	議 案	場 所	出席人数
令和4年 6月2日（木） 第104回理事会	①令和3年度事業報告について ②令和3年度決算報告について ③定時評議員会の招集について	社会福祉法人 えどがわ 事務局会議室	10名
令和4年 6月22日（水） 第90回評議員会	①令和3年度事業報告について ②令和3年度決算報告について	江戸川文化センター 研修室	10名
令和4年 9月21日（水） 第91回評議員会	①令和4年度事業報告(中間報告)について ②令和4年度第1回補正予算（案）について ③規程類の新設・改正（案）について	タワーホール船堀 福寿	9名
令和4年 9月21日（水） 第105回理事会	①令和4年度事業報告(中間報告)について ②令和4年度第1回補正予算（案）について ③規程類の新設・改正（案）について	タワーホール船堀 福寿	9名
令和4年 12月22日（木） 第92回評議員会	①令和5年度事業計画（案）について ②給食調理業務委託者の選定について ③令和4年度第2回補正予算（案）について	タワーホール船堀 瑞雲	9名
令和4年 12月22日（木） 第106回理事会	①令和5年度事業計画（案）について ②給食調理業務委託者の選定について ③令和4年度第2回補正予算（案）について	タワーホール船堀 瑞雲	9名
令和5年 3月23日（木） 第93回評議員会	①令和4年度第3回補正予算（案）について ②令和5年度当初予算（案）について ③園長級昇任及び異動（案）について ④規程類の改正（案）について ⑤理事・監事の推薦依頼について	タワーホール船堀 桃源	9名
令和5年 3月23日（木） 第107回理事会	①令和4年度第3回補正予算（案）について ②令和5年度当初予算（案）について ③園長級昇任及び異動（案）について ④規程類の改正（案）について ⑤理事・監事の推薦依頼について	タワーホール船堀 桃源	10名

令和4年度
事務事業報告書



みんなの笑顔
みんなの未来

社会福祉法人えどがわ
令和5年6月会議用

【会 議】

(1) 評議員会・理事会

- ・評議員会運営規程及び理事会運営規程に基づき、議案の審査及び決議を行う。

会 議 名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
定 例 評 議 員 会	4回	4回	4回
定 例 理 事 会	5回	5回	5回
臨 時 会	未開催	未開催	未開催
主 な 議 案	<ul style="list-style-type: none"> ・6月期 ① 事業報告 ② 決算認定 ・9月期 ① 事業中間報告 ② 補正予算 ・12月期 ① 事業計画 ② 給食事業者選定 ・3月期 ① 当初及び補正予算 		

(注)全期……必要に応じて規程関係及び補正予算(案)あり

(2) 幹事会・各園長会

- ・組織規程に基づき諸会議を開催する。

会 議 名	開 催 日(原則)	参 加 メ ン バ ー
幹 事 会	毎月第一木曜日の午後	局長・次長2人・監事園長2人 計5人
園 長 会	毎月第二木曜日の午後	局長・次長2人・全園長 計25人
チ ー ム 園 長 会	毎月第四木曜日の午後	3チームごと又は全体会として開催

【人事厚生関係】

(1) 総職員数

- ・各園最低1人の増員となるように、採用及び離職防止に努力する。

区 分	令和3年度当初	令和4年度当初	令和5年度当初
採 用 職 員 数	441人	440人	434人
採 用	58人	42人	38人
退 職	△37人	△43人	46人
増 減	+21人	△1人	△6人

(2) 採用職員

- ・例年同様に8月より毎月1回の採用選考を実施、人材紹介会社の活用も継続していく。

区 分	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度当初
採 用 職 員 数	58人	43人	34人
4月1日採用	53人	37人	32人
年 中 採 用	5人	6人	2人
う ち 学 卒 者	32人	23人	16人
う ち 経 験 者	26人	21人	18人
う ち 男 性	3人	4人	1人
う ち 女 性	55人	39人	33人

(3) 退職職員

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度
退職職員数	38人	43人	44人
年度末退職	33人	33人	38人
年中退職	5人	10人	6人

(4) 職員の任命(昇任)

・公平公正な選考を心掛けるとともに、引続き副主任昇任選考は筆記選考とする。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
園長昇任	0人	0人	2人
副園長昇任	3人	0人	2人
主任昇任	3人	4人	3人
副主任昇任	4人	8人	9人
(受験該当者)	(82人)	(91人)	(107)
(受験者)	(11人)	(24人)	(28人)
上級職昇任	26人	27人	19人

(5) 職員健康診断

・可能な限り拠点によるバス健診を継続するが、将来は全職員のセンター健診としたい。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
受診者数	613人(100.0%)	605人(100.0%)	581人(100.0%)
所見あり	399人(65.1%)	315人(52.1%)	314人(54.0%)
再検査	187人(30.5%)	198人(32.7%)	209人(36.0%)
精密検査	113人(18.4%)	91人(15.0%)	100人(17.2%)

(6) ストレスチェック

・引続き実施し、健康リスクの低減を図る。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
量・コントロール	109	108	105
職場の支援	98	99	91
総合健康リスク	106	106	95
最大健康リスク園	135	139	123
最小健康リスク園	77	76	78

(7) 法人独自加入保険給付

・職員にとって更に有益な保険等はないか研究・検討を進める。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
施術給付	4件	5件	1件
給付額	456,490円	747,180円	18,750円
ケガ給付	3件	3件	1件
給付額	320,000円	225,130円	250,000円
コロナ	0件	73件	69件
給付額	0円	655,140円	564,525円

(8) 傷病手当金申請数

・申請漏れなどの確認を行うとともに、適正な申請を行っていく。

区 分	令和2年度実績	令和4年度実績	令和4年度実績
正 規 職 員 申 請	2人	4人	6人
延 申 請 件 数	2件	11件	17件
非 常 勤 申 請	1人	2人	2人
0件	1件	4件	11件

(9) 居住地の状況(住民税納付場所)

・納税責任を果たしていく。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
江 戸 川 区	365人	371人	430人
江 東 区	10人	14人	11人
葛 飾 区	16人	16人	16人
他 区	9人	10人	9人
千 葉 県	50人	43人	42人
埼 玉 県	1人	3人	2人
そ の 他	0人	1人	0人

(10) 産休者・育休者及び短時間勤務者・固定勤務者

・制度周知を進めるとともに、更に使いやすい制度改正や新制度創設の研究を進める。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
総 職 員 数	421人	438人	439人
産 育 休 者	32人	38人	38人
産 育 休 割 合	7.6%	8.7%	8.7%
短時間・固定勤務者	27人	28人	37人

(11) 介護休業者

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
総 職 員 数	1人	0人	0人

(12) 住宅借上げ利用状況

・社宅である旨の制度周知をするとともに、必要な届出等を勧奨していく。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	
利 用 職 員 数	144人	166人	172人	
事 業 費	賃 借 料	125,689,833円	144,430,879円	163,706,995円
	共 益 費 等	6,848,100円	8,135,514円	9,357,407円
	総 支 出 額	132,537,933円	152,566,393円	173,064,402円
財 源	補 助 金	106,602,000円	118,740,000円	131,521,000円
	本 人 負 担 額	10,679,800円	16,802,800円	22,722,800円
	法 人 負 担 額	15,256,133円	17,023,593円	18,820,602円

【給与関係】

(1) 例月支給額

・誤支給等が無いように勤怠情報等の確認を園と本部で適正に行う。(注)各年度4月分支給実績

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
総支給人数	396人	421人	415人
給料	89,842,200円	95,194,700円	94,858,700円
調整手当	10,781,064円	11,423,364円	11,383,044円
処遇改善手当(率)	6,225,896円	6,653,236円	6,587,014円
処遇改善手当(定額)	7,280,000円	7,740,000円	11,695,000円
役職手当	4,576,490円	4,658,750円	4,807,935円
総支給額	118,705,650円	125,670,050円	129,331,693円
平均支給額	299,762円	298,504円	311,642円

※令和4年2月より新処遇改善手当(月額1万円)を支給

(2) 平均年収

・公定価格や各種補助金の増減に連動した給与体系を確立していく。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
全 平 均	4,689,770円	4,670,966円	4,840,509円

(3) 期末勤勉手当支給月数

・規程上の成績給支給が可能となるように、管理職評価基準の適正化を進める。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	
6月	期末手当	1.0月	1.0月	1.0月
	勤勉手当	0.8月	0.8月	0.8月
12月	期末手当	1.0月	1.0月	1.0月
	勤勉手当	1.0月	1.0月	1.0月
3月	勤勉手当	0.5月	0.5月	0.5月
計	期末手当	2.0月	2.0月	2.0月
	勤勉手当	2.3月	2.3月	2.3月
	計	4.3月	4.3月	4.3月

(注)H29年4月に支給月数+0.1月、R2年4月に期末・勤勉の支給割合変更

【規程類関係】

(1) 新規制定及び改正

・法律の新設及び改正や法人の必要性に応じて規程類の新設・改正・廃止を行う。

区分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
新 設		<ul style="list-style-type: none"> ・公益通報者の保護に関する規程 	<ul style="list-style-type: none"> ・育児・介護休業等に関する規程 ・ハラスメント防止規程 ・個人情報保護に関する基本方針 ・個人情報保護規程
改 正	<ul style="list-style-type: none"> ・給与規程(自転車保険加入義務、精励等特別手当など) ・非常勤賃金(最低賃金等) ・就業規則(多様な勤務条件) ・育児休業規程(時間単位取得、短時間勤務との併用可) ・介護休業規程(時間単位取得、賞与減額規定削除等) ・非常勤就業規則(リフレッシュ休暇新設、自転車通勤手当支給) 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則(特別休暇) ・非常勤賃金(最低賃金) 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤賃金(最低賃金)

【研修関係】

(1) 法人必修研修

・法人研修計画(キャリアアップ計画)に従って職層別を実施する。

区 分	令和3年度実績	令和4年度実績
新 任	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで働く力 ・チームでのコミュニケーション ・参加者数 67人 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションのポイント ・前向きに業務に取り組むために ・参加者数 20人
一 般 (1～4年目)	<ul style="list-style-type: none"> ・職場でできる“協力” ・参加者数 172人 	<ul style="list-style-type: none"> ・若手に求められる3つのスキル ・前向きに業務に取り組むために ・参加者数 102人
一 般 (5年目以降)	<ul style="list-style-type: none"> ・職場でできる“協力” ・参加者数 171人 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育と玩具について ・保育の環境づくり ・参加者 90人予定
リ ー ダ ー	<ul style="list-style-type: none"> ・職場でできる“協力” ・職場でできる“貢献” ・参加人数 158人 	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる子の発達支援 ・参加者 80人予定
副 主 任	<ul style="list-style-type: none"> ・副主任の役割とは ・信頼マネジメント ・参加者数 101人 	<ul style="list-style-type: none"> ・副主任としての役割を考える ・前向きに業務に取り組む為に ・参加者数 54人
副 園 長 主 任	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーについて考える ・自分について考える ・参加者数 63人 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心を育てる アタッチメントの大切さ ・参加者数 34人
管 理 職	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価のあり方 ・ガイドラインについて ・参加者数 25人 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心を育てる アタッチメントの大切さ ・参加者数 25人

(2) 東京都・江戸川区キャリアアップ研修

・職層に応じた国の研修基準であり、法人も国基準に準拠して受講を進めていく。

区 分	令和3年度実績	令和4年度実績
マ ネ ー ジ メ ン ト	受講者 22人	受講者 7人
乳 児 保 育	受講者 6人	受講者 10人
幼 児 教 育	受講者 3人	受講者 5人
障 害 児	受講者 9人	受講者 9人
食 育・アレルギ ー	受講者 2人	受講者 3人
保 健 衛 生・安 全	受講者 2人	受講者 1人
保 護 者・子 育 て 支 援	受講者 4人	受講者 6人

(3) 外部研修及び園内研修等

・外部研修の活用や法人が時代に応じた研修テーマと講師を選定して実施していく。

区 分	令和3年度実績	令和4年度実績
外 部 研 修	<ul style="list-style-type: none"> ・防災研修(江戸川区) ・新人保育士(江戸川区) ・衛生推進者(労基連合) ・リーダー研修(私保園長会) ・危機管理(私保園長会) ・発達支援(江戸川区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災研修(江戸川区) ・新人保育士(江戸川区) ・衛生推進者(労基連合) ・リーダー研修(私保園長会) ・危機管理(私保園長会) ・発達支援(江戸川区)
園 内 研 修	<ul style="list-style-type: none"> ・AED研修 ・嘔吐処理券集 ・不審者対応研修 ・パソコン研修 ・各園に応じた研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・AED研修 ・嘔吐処理券集 ・不審者対応研修 ・パソコン研修 ・各園に応じた研修
そ の 他 研 修	<ul style="list-style-type: none"> ・職層別研修(法人) ・給食研修(法人) ・PC研修(法人) ・気になる子研修(法人) ・交流研修(法人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・職層別研修(法人) ・給食研修(法人) ・PC研修(法人) ①PC操作等 ②ウェルキッズ* 捜査等

【財務関係】

(1) 予算計上状況

・年度間予算を当初計上し、必要に応じて過不足の補正予算を計上する。

区 分	令和3年度実績	令和4年度実績	
収 入	当 初 予 算	5,098,844 千円	4,707,228 千円
	補 正 1 号	△57,165 千円	29,340 千円
	補 正 2 号	22,980 千円	12,633 千円
	補 正 3 号	58,510 千円	14,907 千円
	最 終 予 算 額	5,123,169 千円	4,764,108 千円
支 出	当 初 予 算	5,172,398 千円	4,573,724 千円
	補 正 1 号	147,740 千円	102,978 千円
	補 正 2 号	30,795 千円	56,220 千円
	補 正 3 号	27,584 千円	34,772 千円
	最 終 予 算 額	5,378,517 千円	4,767,694 千円
差 引	当 初 予 算	△73,554 千円	133,504 千円
	補 正 1 号	△204,905 千円	△73,638 千円
	補 正 2 号	△7,815 千円	△43,587 千円
	補 正 3 号	30,926 千円	△19,865 千円
	最 終 予 算 額	△255,348 千円	△3,586 千円

(注) 令和3年度予算…基金の積みなおしを実行

(2) 決算状況

・決算調整後に様々な分析を行い、当初予算編成や健全財政維持に活用していく。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
収入総額	5,150,202,667円	4,869,254,102円	4,804,432,287円
支出総額	5,245,505,494円	5,024,012,772円	4,675,055,351円
収支差額	△95,302,827円	△154,758,670円	129,376,936円
実質収支差額	364,697,173円 ※積立460,000,000円	55,241,330円 ※210,000,000円 他に大規模改205,000千円	244,376,936円 ※積立115,000,000円

(3) 積立金の状況

・不測の事態や将来のために適正な範囲で資金積立を行う。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	
前期末積立金	1,613,145,920円	2,082,000,000円	2,074,000,000円	
今期増減	積立金	468,854,080円	210,000,000円	115,000,000円
	取崩し	0円	△218,000,000円 ※3園大規模改修工事費充当	0円
今期末積立金	2,082,000,000円	2,074,000,000円	2,189,000,000円	

(4) 財務分析

・決算調整後に様々な分析を行い、当初予算編成や健全財政維持に活用していく。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
流動比率	240.3%	215.4%	257.6%
純資産比率	81.5%	83.7%	85.2%
人件費率	60.2%	62.3%	62.4%
委託費率	10.3%	10.8%	10.5%
人件費率+委託費率	70.3%	73.1%	72.9%
固定長期適合率	83.3%	87.8%	84.6%
経常活動収支差額率	8.9%	5.3%	5.0%
労働分配率	78.8%	82.7%	82.5%

(5) 仮払い・小口現金

・必要最低限な現金管理となるように各園と協議の上、改善を図っていく。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	
仮払い	執行件数	149件	185件	146件
	執行額	2,569,674円	2,547,400円	2,477,023円
	1件単価	17,246円	13,770円	16,966円
小口現金	執行件数	81件	69件	51件
	執行額	3,370,000円	2,846,000円	2,282,000円
	1件単価	41,605円	41,246円	44,745円

【監査関係】

(1) 江戸川区指導検査

- 江戸川区児童福祉施設等指導検査実施要綱に基づき毎年全園が検査を受ける。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度
実 施 園 数	未 実 施	予 定 15園 実 施 4園	予 定 23園 実 施 23園
文 書 指 摘 事 項		指 摘 1園 毎月の消火訓練	指 摘 2園 毎月の消火訓練 毎月の避難訓練等
備 考		令和4年1月実施 ※コロナにより中断	

(2) 法人巡回監査

- 会計処理の適正化や財務規律の強化を図るため年2回、全園巡回監査を実施する。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
第 一 回 目	9月24日～10月15日	9月27日～10月18日 (注)コロナのためオンライン監査	10月3日～10月19日 対 面 式
第 二 回 目	12月1日～12月7日 (注)コロナのためオンライン監査	11月15日～12月15日 (注)コロナのためオンライン監査	11月15日～12月13日 対 面 式
主 な 調 査 内 容	<ul style="list-style-type: none"> 固定資産関係 クオカード、切手保管 小口現金、公印管理 	<ul style="list-style-type: none"> 苦情処理、標準化 おひさまの魅力発信 勤務シフト(超過勤務) 	<ul style="list-style-type: none"> 園の特長付け 固定資産台帳等管理 現金等管理など

(3) 会計監査人監査

- 年1回の決算期に法定監査人である会計監査人監査を受け、評価を得る。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
実 施 状 況	令和3年5月24日 延44日	令和4年5月23日 延44日	令和5年5月24日 延44日
監 査 結 果	無限定適正	無限定適正	無限定適正
備 考	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算

(4) 監事監査

- 年1回の決算期に法人監事の監査を受け、評価を得る。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
実 施 状 況	令和3年5月24日	令和4年5月23日	令和4年5月24日
監 査 結 果	正しいと認める	正しいと認める	正しいと認める
備 考			

【保育園運営】

(1) 年齢別在園児数(年度当初)

- ・地域の保育ニーズ、施設現況及び配置職員等を勘案し適正な利用定員を設定していく。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	
利用定員	2,912人	2,912人	2,871人	2,837人	
在籍状況	1歳児	496人	484人	483人	476人
	2歳児	560人	553人	542人	540人
	3歳児	618人	571人	553人	550人
	4・5歳児	1,281人	1,191人	1,160人	1,131人
在籍児童の計	2,912人	2,799人	2,738人	2,697人	
児童在籍率	98.3%	96.1%	95.4%	95.1%	

(2) 特別保育事業(年度当初)

- ・課題となっている延長保育の利用者減と一時保育の再開について研究・検討を進める。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
延長保育	321人	248人	201人	187人
一時保育	※平成30年より休止中			

(3) アレルギー食と宗教食

- ・医師の指示書により適正な提供を心掛ける。

(注)カッコ内は在籍割合

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
アレルギー食提供	126人(4.40%)	111人(3.97%)	83人(3.03%)
うち弁当持参	2人	1人	1人
宗教食提供	8人(0.28%)	9人(0.48%)	14人(0.51%)
うち弁当持参	0人	1人	4人
計	134人(4.68%)	120人(4.45%)	97人(3.54%)
投薬のため除去提供	2人	0人	1人
家庭の事情	0人	1人	0人
障害児(ダウン症)	2人	0人	0人

(4) 障がい児保育と気になる子

(注)カッコ内は在籍割合

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
障がい児(認定児)	67人(2.34%)	78人(2.79%)	73人(2.67%)
気になる児童	36人(1.26%)	38人(1.36%)	67人(2.44%)
計	103人(3.60%)	116人(4.15%)	140人(5.12%)

(5) 第三者評価と利用者調査の実施状況

・3年毎に第三者評価、利用者調査は毎年実施し、保育の質の向上を図る。

区 分	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績
第 三 者 評 価	5園	11園	7園
利 用 者 調 査	18園	12園	16園
平 均 満 足 度	93.6%	92.8%	92.9%

(注)満足度は、五段階評価の「大変満足」と「満足」を加算した率

以下、必要に応じて追加・修正・削除をしていきます。

1. 定員等

拠点名	認可定員						年度末在籍人数比率																				
							在籍園児数 2023/3/31						認可割合	保育標準時間2023/3/31						在籍割合	保育短時間2023/3/31						在籍割合
	1歳	2歳	3歳	4.5歳	合計	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計	1歳		2歳	3歳	4歳	5歳	合計	1歳		2歳	3歳	4歳	5歳	合計		
1	葛西	20人	24人	35人	70人	149人	20人	24人	30人	29人	30人	133人	89.3%	20人	21人	23人	21人	24人	109人	82.0%	0人	3人	7人	8人	6人	24人	18.0%
2	新堀	20人	23人	23人	46人	112人	20人	22人	23人	22人	20人	107人	95.5%	18人	17人	19人	19人	20人	93人	86.9%	2人	5人	4人	3人	0人	14人	13.1%
3	東小松川	12人	18人	22人	48人	100人	17人	22人	23人	26人	23人	111人	111.0%	17人	19人	17人	22人	21人	96人	86.5%	0人	3人	6人	4人	2人	15人	13.5%
4	鹿骨	26人	28人	31人	65人	150人	28人	26人	25人	28人	30人	137人	91.3%	21人	23人	20人	25人	26人	115人	83.9%	7人	3人	5人	3人	4人	22人	16.1%
5	北葛西	24人	27人	31人	62人	144人	24人	26人	26人	28人	30人	134人	93.1%	17人	22人	17人	21人	26人	103人	76.9%	7人	4人	9人	7人	4人	31人	23.1%
6	葛西第二	21人	24人	26人	53人	124人	21人	24人	22人	23人	26人	116人	93.5%	17人	17人	12人	19人	22人	87人	75.0%	4人	7人	10人	4人	4人	29人	25.0%
7	春江	24人	27人	34人	72人	157人	24人	26人	29人	33人	28人	140人	89.2%	21人	22人	22人	26人	24人	115人	82.1%	3人	4人	7人	7人	4人	25人	17.9%
8	東小岩	17人	20人	24人	52人	113人	19人	21人	23人	24人	23人	110人	97.3%	16人	18人	19人	20人	22人	95人	86.4%	3人	3人	4人	4人	1人	15人	13.6%
9	西篠崎	20人	23人	25人	52人	120人	20人	24人	24人	25人	26人	119人	99.2%	18人	22人	18人	21人	24人	103人	86.6%	2人	2人	6人	4人	2人	16人	13.4%
10	西小岩	27人	30人	35人	73人	165人	27人	30人	29人	31人	31人	148人	89.7%	24人	25人	23人	26人	28人	126人	85.1%	3人	5人	6人	5人	3人	22人	14.9%
11	松江	17人	20人	25人	54人	116人	19人	21人	24人	23人	24人	111人	95.7%	18人	16人	21人	19人	21人	95人	85.6%	1人	5人	3人	4人	3人	16人	14.4%
12	松本	18人	26人	30人	62人	136人	20人	23人	27人	29人	30人	129人	94.9%	16人	20人	21人	24人	28人	109人	84.5%	4人	3人	6人	5人	2人	20人	15.5%
13	清新	20人	23人	28人	58人	129人	23人	25人	26人	28人	28人	130人	100.8%	22人	22人	20人	23人	26人	113人	86.9%	1人	3人	6人	5人	2人	17人	13.1%
14	小松川	24人	25人	27人	53人	129人	23人	24人	25人	24人	21人	117人	90.7%	23人	22人	23人	20人	21人	109人	93.2%	2人	2人	4人	0人	0人	8人	6.8%
15	南葛西	16人	23人	25人	54人	118人	18人	23人	22人	23人	23人	109人	92.4%	17人	20人	18人	18人	20人	93人	85.3%	1人	3人	4人	5人	3人	16人	14.7%
16	西葛西	25人	26人	27人	60人	138人	25人	24人	25人	26人	27人	127人	92.0%	22人	17人	22人	25人	23人	109人	85.8%	3人	7人	3人	1人	4人	18人	14.2%
17	中葛西	27人	28人	28人	56人	139人	27人	26人	26人	27人	27人	133人	95.7%	17人	19人	19人	23人	26人	104人	78.2%	10人	7人	7人	4人	1人	29人	21.8%
18	松島	19人	21人	25人	52人	117人	18人	21人	23人	21人	25人	108人	92.3%	15人	19人	18人	19人	20人	91人	84.3%	3人	2人	5人	2人	5人	17人	15.7%
19	清新第二	22人	23人	23人	46人	114人	22人	22人	23人	23人	22人	112人	98.2%	21人	18人	21人	17人	18人	95人	84.8%	1人	4人	2人	6人	4人	17人	15.2%
20	北小岩	15人	23人	25人	51人	114人	15人	22人	22人	23人	26人	108人	94.7%	15人	20人	18人	21人	23人	97人	89.8%	0人	2人	4人	2人	3人	11人	10.2%
21	南篠崎	20人	23人	24人	48人	115人	20人	22人	20人	20人	18人	100人	87.0%	17人	18人	16人	16人	13人	80人	80.0%	3人	4人	4人	4人	5人	20人	20.0%
22	新田	18人	20人	20人	40人	98人	20人	20人	19人	20人	18人	97人	99.0%	18人	15人	16人	16人	15人	80人	82.5%	2人	5人	3人	4人	3人	17人	17.5%
22	宇喜田	17人	19人	25人	54人	115人	17人	21人	20人	24人	25人	107人	93.0%	15人	18人	15人	20人	21人	89人	83.2%	2人	3人	5人	4人	4人	18人	16.8%
合計		469人	544人	618人	1281人	2912人	487人	539人	556人	580人	581人	2743人	94.2%	425人	450人	438人	481人	512人	2306人	84.1%	64人	89人	120人	95人	69人	437人	15.9%

2. 延長保育(登録数)

拠点名	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			合計			月平均登録数			月平均登録率		
	乳児	幼児	合計	乳児	幼児	合計	乳児	幼児	合計	乳児	幼児	合計	乳児	幼児	合計	乳児	幼児	合計	乳児	幼児	合計	乳児	幼児	合計	乳児	幼児	合計	乳児	幼児	合計	乳児	幼児	合計	乳児	幼児	合計	乳児	幼児	合計						
1 葛西	3	6	9	3	7	10	3	6	9	3	6	9	3	7	10	3	8	11	3	8	11	3	8	11	3	12	15	4	14	18	3	14	17	37人	104人	141人	3人	9人	12人	7.0%	9.7%	8.8%			
2 新堀	0	10	10	0	10	10	0	10	10	0	9	9	0	9	9	0	9	9	0	9	9	1	9	10	1	9	10	1	9	10	1	9	10	5人	111人	116人	0人	9人	10人	1.0%	14.2%	9.0%			
3 東小松川	3	6	9	3	6	9	3	6	9	4	6	10	4	6	10	4	6	10	4	6	10	5	6	11	5	6	11	5	6	11	5	6	11	50人	72人	122人	4人	6人	10人	10.7%	8.3%	9.2%			
4 鹿骨	1	9	10	2	9	11	2	9	11	2	9	11	2	9	11	2	9	11	1	9	10	1	10	11	1	12	13	1	11	12	1	11	12	17人	118人	135人	1人	10人	11人	2.6%	11.8%	8.2%			
5 北葛西	0	6	6	1	6	7	1	6	7	1	6	7	1	6	7	1	6	7	1	6	7	1	6	7	1	6	7	1	5	6	1	5	6	11人	70人	81人	1人	6人	7人	1.8%	6.9%	5.0%			
6 葛西第二	2	7	9	1	7	8	1	7	8	1	7	8	1	7	8	2	7	9	2	7	9	2	7	9	2	8	10	2	7	9	2	8	10	20人	87人	107人	2人	7人	9人	3.7%	10.2%	7.7%			
7 春江	0	10	10	1	10	11	2	8	10	2	8	10	2	8	10	2	6	8	2	6	8	2	6	8	2	8	10	3	7	10	2	9	11	22人	95人	117人	2人	8人	10人	3.7%	8.8%	7.0%			
8 東小岩	3	1	4	3	1	4	3	0	3	3	0	3	3	1	4	2	1	3	2	2	4	2	2	4	2	2	4	3	1	4	3	1	4	32人	13人	45人	3人	1人	4人	6.7%	1.5%	3.4%			
9 西篠崎	3	5	8	3	5	8	3	5	8	3	5	8	3	4	7	3	5	8	4	6	10	4	6	10	3	6	9	3	6	9	3	6	9	38人	65人	103人	3人	5人	9人	7.2%	7.2%	7.2%			
10 西小岩	4	14	18	4	14	18	2	14	16	2	14	16	3	14	17	3	14	17	4	17	21	4	16	20	4	16	20	4	17	21	4	19	23	42人	188人	230人	4人	16人	19人	6.1%	17.2%	13.0%			
11 松江	7	12	19	7	12	19	8	12	20	8	13	21	8	13	21	8	13	21	8	13	21	6	12	18	6	12	18	5	12	17	5	12	17	81人	148人	229人	7人	12人	19人	16.9%	17.4%	17.2%			
12 松本	1	5	6	5	1	6	1	5	6	2	5	7	2	5	7	2	5	7	2	5	7	2	5	7	2	6	8	2	6	8	2	6	8	25人	58人	83人	2人	5人	7人	4.8%	5.6%	5.4%			
13 清新	2	11	13	2	11	13	2	11	13	2	12	14	2	12	14	2	11	13	2	11	13	2	11	13	1	11	12	1	11	12	1	13	14	20人	136人	156人	2人	11人	13人	3.5%	13.8%	10.0%			
14 小松川	3	4	7	3	4	7	5	4	9	3	4	7	3	4	7	3	4	7	3	4	7	3	4	7	4	4	8	3	4	7	3	4	7	40人	48人	88人	3人	4人	7人	7.1%	5.7%	6.3%			
15 南葛西	2	5	7	6	7	13	5	7	12	5	8	13	5	8	13	5	7	12	5	6	11	5	6	11	5	7	12	5	6	11	5	7	12	58人	81人	139人	5人	7人	12人	11.8%	9.9%	10.6%			
16 西葛西	2	6	8	2	5	7	2	5	7	3	5	8	3	5	8	1	5	6	1	5	6	3	5	8	4	5	9	4	2	6	5	3	8	4	3	7	34人	54人	88人	3人	5人	7人	5.8%	5.8%	5.8%
17 中葛西	5	6	11	3	6	9	3	6	9	3	6	9	3	7	10	3	7	10	3	7	10	3	7	10	3	8	11	3	8	11	3	7	10	38人	83人	121人	3人	7人	10人	6.0%	8.6%	7.6%			
18 松島	0	6	6	0	6	6	0	6	6	0	6	6	0	6	6	0	7	7	0	7	7	0	8	8	0	8	8	0	8	8	0	8	8	0人	84人	84人	0人	7人	7人	0.0%	10.1%	6.5%			
19 清新第二	3	6	9	5	6	11	5	7	12	7	7	14	7	6	13	6	5	11	7	5	12	7	5	12	7	5	12	7	5	12	7	5	12	75人	67人	142人	6人	6人	12人	14.2%	8.2%	10.6%			
20 北小岩	0	4	4	0	4	4	0	4	4	0	4	4	1	3	4	1	3	4	1	3	4	4	3	4	1	3	4	1	3	4	1	3	4	11人	40人	51人	1人	3人	4人	2.5%	4.7%	3.9%			
21 南篠崎	0	3	3	0	3	3	0	3	3	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0人	27人	27人	0人	2人	2人	0.0%	3.9%	2.3%			
22 新田	2	6	8	2	5	7	2	5	7	2	5	7	2	5	7	2	5	7	2	6	8	2	6	8	4	7	11	4	6	10	4	6	10	32人	69人	101人	3人	6人	8人	6.7%	10.1%	8.7%			
23 宇喜田	6	10	4	6	10	4	5	9	4	5	9	4	6	10	4	6	10	4	6	10	4	7	11	4	7	11	4	7	11	4	7	11	7人	11人	4人	7人	11人	18人	18.4%	15.9%	16.8%				
合計/平均	52	158	198	62	155	205	58	155	203	61	156	207	64	157	209	61	155	204	63	160	211	69	161	213	68	170	224	68	169	223	69	172	227	68	173	227	695	1829	2510	64人	162.5	227人	6.4%	9.4%	8.3%

3. 子育てひろば、保育所体験 ※子どもの数のみ

拠点名	子育てひろば参加人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1 葛西	5人	20人	26人	10人	16人	32人	0人	19人	0人	10人	11人	23人	172人
2 新堀	0人	1人	0人	0人	0人	1人	0人	2人	4人	2人	0人	3人	13人
3 東小松川	0人	9人	1人	0人	2人	10人	19人	2人	1人	1人	0人	0人	45人
4 鹿骨	0人	2人	3人	0人	0人	1人	4人	2人	4人	7人	3人	6人	32人
5 北葛西	7人	10人	8人	5人	8人	10人	10人	9人	13人	10人	16人	12人	118人
6 葛西第二	4人	7人	10人	4人	4人	16人	21人	17人	18人	4人	7人	7人	119人
7 春江	0人	12人	14人	6人	12人	10人	12人	15人	5人	14人	15人	15人	130人
8 東小岩	0人	7人	6人	1人	4人	5人	16人	12人	9人	9人	13人	11人	93人
9 西篠崎	1人	3人	3人	2人	0人	3人	6人	7人	6人	10人	11人	7人	59人
10 西小岩	0人	4人	2人	4人	4人	6人	20人	13人	13人	17人	11人	10人	104人
11 松江	3人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	2人	0人	2人	2人	0人	11人
12 松本	6人	12人	12人	9人	13人	19人	25人	4人	8人	10人	8人	14人	140人
13 清新	2人	4人	9人	11人	9人	8人	9人	7人	7人	11人	16人	6人	99人
14 小松川	0人	4人	6人	4人	2人	3人	5人	12人	9人	6人	8人	9人	68人
15 南葛西	0人	0人	0人	0人	3人	4人	14人	1人	0人	0人	17人	4人	43人
16 西葛西	1人	4人	10人	5人	4人	8人	10人	12人	11人	5人	10人	8人	88人
17 中葛西	2人	6人	11人	0人	13人	11人	10人	5人	10人	12人	16人	21人	117人
18 松島	2人	4人	5人	5人	0人	6人	8人	4人	4人	7人	5人	10人	60人
19 清新第二	0人	4人	0人	0人	0人	8人	24人	30人	10人	26人	6人	8人	116人
20 北小岩	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	2人	0人	0人	0人	0人	3人
21 南篠崎	3人	3人	11人	4人	6人	13人	7人	4人	9人	13人	11人	14人	98人
22 新田	0人	0人	11人	7人	10人	8人	15人	15人	10人	14人	20人	14人	124人
23 宇喜田	2人	4人	10人	7人	8人	12人	14人	14人	18人	16人	22人	27人	154人
合計	38人	120人	158人	84人	118人	195人	251人	210人	169人	206人	228人	229人	2006人

拠点名	保育所体験参加人数 ※サービス推進費子どものみ												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
葛西	3人	10人	13人	5人	17人	16人	14人	9人	0人	0人	0人	10人	97人
新堀	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	4人	2人	1人	7人
東小松川	0人	9人	1人	0人	2人	10人	11人	2人	1人	1人	0人	0人	37人
鹿骨	1人	0人	2人	0人	0人	1人	4人	2人	2人	4人	2人	4人	22人
北葛西	7人	10人	9人	5人	10人	9人	7人	8人	3人	0人	0人	0人	68人
葛西第二	0人	10人	19人	11人	19人	16人	20人	13人	18人	0人	0人	0人	126人
春江	1人	5人	7人	3人	6人	10人	6人	15人	9人	2人	0人	0人	64人
東小岩	0人	7人	7人	1人	4人	5人	17人	13人	3人	9人	13人	0人	79人
西篠崎	1人	2人	3人	2人	0人	3人	6人	6人	7人	10人	10人	0人	50人
西小岩	0人	4人	2人	4人	4人	6人	20人	3人	0人	0人	0人	0人	43人
松江	2人	0人	0人	0人	0人	0人	3人	1人	0人	1人	0人	0人	7人
松本	3人	6人	6人	5人	7人	10人	13人	2人	3人	0人	0人	0人	55人
清新	2人	4人	18人	11人	9人	8人	15人	13人	6人	0人	7人	6人	99人
小松川	0人	4人	6人	4人	1人	3人	5人	12人	9人	2人	0人	0人	46人
南葛西	0人	0人	0人	0人	3人	4人	14人	1人	0人	0人	17人	4人	43人
西葛西	1人	3人	10人	5人	4人	8人	10人	12人	6人	0人	0人	0人	59人
中葛西	0人	0人	0人	3人	9人	3人	1人	0人	2人	0人	0人	0人	18人
松島	2人	4人	5人	5人	0人	5人	8人	4人	4人	7人	0人	7人	51人
清新第二	0人	0人	0人	0人	0人	2人	12人	7人	5人	13人	3人	4人	46人
北小岩	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
南篠崎	2人	3人	11人	4人	6人	13人	7人	4人	4人	0人	0人	0人	54人
新田	0人	0人	10人	7人	10人	8人	13人	15人	10人	9人	11人	0人	93人
宇喜田	1人	2人	5人	4人	4人	6人	7人	3人	9人	13人	0人	0人	54人
合計	26人	83人	134人	79人	115人	146人	213人	145人	101人	75人	65人	36人	1218人

4、感染症(登園許可書毎数)※インフルエンザはA、B同一とする

拠点名	1	枚数	2	枚数	3	枚数	その他	枚数	合計
1 葛西	手足口病	31	ヘルパンギーナ	15	ヒトメタニューモウイルス	10	感染性胃腸炎、アデノウイルス感染症、RSウイルス、夏風邪	17	73
2 新堀	手足口病	34	RSウイルス	5	溶連菌感染症	3	インフルエンザ、プール熱、ヘルパンギーナ、ヒトメタニューモウイルス、ウイルス性胃腸炎	6	48
3 東小松川	手足口病	10	流行性角膜炎	5	胃腸炎	4	インフルエンザ、水痘、ヘルパンギーナ、RSウイルス、ヒトメタニューモウイルス、アデノウイルス	16	35
4 鹿骨	新型コロナウイルス	75	インフルエンザ	43	手足口病	24	ヘルパンギーナ、胃腸炎、溶連菌、咽頭結膜炎	10	152
5 北葛西	手足口病	28	感染性胃腸炎	18	ヒトメタニューモ	10	なし	0	56
6 葛西第二	手足口病	42	コロナウイルス	39	RSウイルス	22	インフルエンザ、感染性胃腸炎、ヒトメタニューモウイルス、急性気管支炎、咽頭結膜熱他	57	160
7 春江	手足口病	26	感染性胃腸炎	12	インフルエンザ	5	RSウイルス感染症、水痘、突発性発疹、ヒトメタニューモウイルス感染症	8	51
8 東小岩	手足口病	19	ヘルパンギーナ	4	アデノウイルス	2	咽頭結膜熱、ウイルス性胃腸炎、溶連菌、RSウイルス	4	29
9 西篠崎	手足口病	7	急性胃腸炎	4	溶連菌	3	インフルエンザ、RSウイルス、水痘、ロタウイルス	5	19
10 西小岩	手足口病	32	インフルエンザ	2	ヘルパンギーナ	2	胃腸炎	1	37
11 松江	手足口病	49	感染性胃腸炎	32	ヘルパンギーナ	13	ヒトメタニューモウイルス、RSウイルス、溶連菌感染症、アデノウイルス、インフルエンザ、マイコプラズマ	24	118
12 松本	手足口病	20	感染性胃腸炎	6	RSウイルス感染症	2	インフルエンザ、溶連菌感染症、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ	5	33
13 清新	ヘルパンギーナ	17	手足口病	11	胃腸炎	4	インフルエンザ、RSウイルス、ヒトメタニューモウイルス	6	38
14 小松川	インフルエンザ	31	コロナ	29	溶連菌	13	水痘、手足口病、ヘルパンギーナ、RSウイルス、感染性胃腸炎、ノロ、ヒトメタニューモ	32	105
15 南葛西	インフルエンザ	40	手足口病	33	ヒトメタニューモウイルス感染症	24	胃腸炎/腸炎/アデノウイルス/ヘルパンギーナ/プール熱/RS	39	136
16 西葛西	ヒトメタニューモウイルス感染症	21	ヘルパンギーナ	7	RSウイルス感染症	5	手足口病、胃腸炎、咽頭結膜熱、プール熱、アデノウイルス感染症	11	44
17 中葛西	手足口病	28	ヘルパンギーナ	20	感染性胃腸炎	18	RSウイルス、ヒトメタニューモウイルス、結膜炎、帯状疱疹、インフルエンザ	15	81
18 松島	手足口病	27	インフルエンザ	22	溶連菌感染症	4	ヘルパンギーナ、RSウイルス、感染性胃腸炎、咽頭結膜炎、流行性角結膜炎	13	66
19 清新第二	インフルエンザ	35	新型コロナウイルス	13	ヘルパンギーナ	7	手足口病、とびひ	2	57
20 北小岩	手足口病	16	感染性胃腸炎	4	ヘルパンギーナ	3	インフルエンザ、アデノウイルス感染症	2	25
21 南篠崎	手足口病	36	インフルエンザ	37	RSウイルス	4	インフルエンザ、ヘルパンギーナ、胃腸炎(ロタウイルス)、咽頭結膜熱、溶連菌	9	86
22 新田	インフルエンザ	33	手足口病	17	ヘルパンギーナ	12	ヒトメタニューモウイルス、アデノウイルス、RSウイルス、胃腸炎	8	70
23 宇喜田	手足口病	20	胃腸炎	17	咽頭結膜熱 / ヘルパンギー	4	RSウイルス、流行性耳下腺炎、急性上気道炎、気管支炎	4	45
合計		677		395		198		294	1564

5. AL、食事の配慮の必要(宗教等)

拠点名	AL申請児童数								主だったアレルギー	エピペン等預かり人数
	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計	在籍割合			
1	葛西	1人	4人	1人	1人	0人	7人	6.4%	乳 卵 ごま 魚卵 その他	0人
2	新堀	2人	1人	1人	0人	0人	4人	4.3%	乳 卵 甲殻類 バナナ	0人
3	東小松川	2人	1人	1人	0人	1人	5人	5.2%	鶏卵 牛乳 ごま	1人
4	鹿骨	1人	1人	0人	1人	1人	4人	3.5%	卵 甲殻類	0人
5	北葛西	0人	1人	0人	0人	1人	2人	1.9%	鶏卵 魚卵 魚	0人
6	葛西第二	1人	0人	1人	2人	0人	4人	4.6%	鶏卵 乳	0人
7	春江	0人	2人	0人	0人	0人	2人	1.7%	卵 乳 りんご	1人
8	東小岩	1人	1人	2人	0人	1人	5人	5.3%	卵 牛乳 魚	0人
9	西篠崎	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0.0%	なし	0人
10	西小岩	1人	2人	0人	0人	0人	3人	2.4%	鶏卵 乳製品	0人
11	松江	2人	1人	2人	0人	2人	7人	7.4%	卵 乳 大豆 鶏肉 甲殻類 魚卵	1人
12	松本	1人	0人	2人	1人	0人	4人	3.7%	卵 乳 魚	0人
13	清新	0人	2人	0人	0人	2人	4人	3.5%	卵 魚	1人
14	小松川	0人	1人	0人	2人	0人	3人	2.8%	バナナ キウイ 小麦 卵 牛乳 乳製品	0人
15	南葛西	0人	2人	0人	2人	1人	5人	5.4%	卵 乳 小麦 甲殻類 軟体類	0人
16	西葛西	1人	1人	0人	0人	2人	4人	3.7%	鶏卵 魚卵 乳	0人
17	中葛西	1人	0人	2人	1人	0人	4人	3.8%	鶏卵 牛乳 乳製品 小麦 魚卵 魚類	1人
18	松島	0人	1人	3人	1人	1人	6人	6.6%	卵 魚 魚卵 アサリ	0人
19	清新第二	1人	1人	0人	1人	1人	4人	4.2%	鶏卵 貝類 甲殻類	0人
20	北小岩	1人	3人	0人	2人	0人	6人	6.2%	卵	0人
21	南篠崎	1人	0人	0人	0人	0人	1人	1.3%	卵	0人
22	新田	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0.0%	なし	0人
23	宇喜田	0人	0人	0人	2人	0人	2人	2.2%	卵 乳 乳製品 小麦	0人
合計		17人	25人	15人	16人	13人	86人	3.7%		5人

拠点名	他食事の配慮児童数				主訴(宗教食他)
	乳児	幼児	合計	在籍割合	
葛西	0人	0人	0人	0.0%	なし
新堀	0人	0人	0人	0.0%	なし
東小松川	0人	0人	0人	0.0%	なし
鹿骨	0人	0人	0人	0.0%	なし
北葛西	0人	0人	0人	0.0%	なし
葛西第二	0人	0人	0人	0.0%	なし
春江	0人	0人	0人	0.0%	なし
東小岩	0人	1人	1人	0.9%	宗教食
西篠崎	0人	0人	0人	0.0%	なし
西小岩	0人	0人	0人	0.0%	なし
松江	1人	0人	1人	0.9%	宗教食※弁当持参
松本	1人	0人	1人	0.8%	柑橘類等(服薬との兼ね合い)
清新	0人	0人	0人	0.0%	なし
小松川	1人	3人	4人	3.4%	宗教食
南葛西	2人	0人	2人	1.8%	宗教食
西葛西	2人	0人	2人	1.6%	宗教食※弁当持参
中葛西	0人	0人	0人	0.0%	なし
松島	1人	1人	2人	1.9%	宗教食
清新第二	1人	1人	2人	1.8%	宗教食
北小岩	0人	0人	0人	0.0%	なし
南篠崎	0人	3人	3人	3.0%	宗教食※弁当持参
新田	1人	0人	1人	1.0%	宗教食
宇喜田	0人	0人	0人	0.0%	なし
合計	10人	9人	19人	0.7%	

6. 障害児(区申請)、保護家庭(児相、支援センター関連)

拠点名	障害児(区申請)					合計	園児割合	主だった主訴
	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳			
1 葛西	0人	0人	1人	1人	4人	6人	4.5%	自閉症スペクトラムの疑い。言語面遅れ等
2 新堀	1人	0人	1人	0人	1人	3人	2.8%	ダウン症、発達遅延
3 東小松川	0人	0人	0人	0人	1人	1人	0.9%	発達遅滞
4 鹿骨	0人	0人	2人	2人	2人	6人	4.4%	ダウン症、自閉症スペクトラム、発達遅滞、言葉の遅れ
5 北葛西	0人	4人	4人	4人	0人	12人	9.0%	自閉症スペクトラム、知的発達遅滞
6 葛西第二	0人	0人	0人	0人	2人	2人	1.7%	自閉症スペクトラム
7 春江	0人	0人	1人	1人	1人	3人	2.1%	発達遅滞
8 東小岩	0人	0人	1人	0人	3人	4人	3.6%	協調運動障害、自閉症、発達の遅れ、多動
9 西篠崎	1人	0人	2人	0人	0人	3人	2.5%	ダウン症、言葉の遅れ、自閉症傾向
10 西小岩	0人	0人	0人	0人	2人	2人	1.3%	ADHD
11 松江	0人	2人	0人	1人	0人	3人	2.7%	発達障害、ダウン症、自閉症スペクトラム
12 松本	0人	0人	1人	1人	2人	4人	3.1%	発達遅滞、多動
13 清新	0人	0人	0人	0人	3人	3人	2.3%	言葉の遅れ、発達遅滞b
14 小松川	0人	0人	2人	0人	2人	4人	3.4%	自閉症スペクトラム、言葉の遅れ
15 南葛西	0人	0人	1人	1人	0人	2人	1.8%	精神発達遅延・ADHD
16 西葛西	0人	0人	0人	2人	1人	3人	2.4%	自閉スペクトラム
17 中葛西	0人	0人	0人	1人	0人	1人	0.8%	自閉症スペクトラム、知的障害
18 松島	0人	1人	1人	1人	1人	4人	3.7%	発達遅滞、自閉傾向
19 清新第二	0人	0人	0人	1人	4人	5人	4.5%	自閉症スペクトラム、選択性緘黙、心疾患
20 北小岩	0人	0人	2人	2人	0人	4人	3.7%	自閉症スペクトラム症の疑い
21 南篠崎	0人	0人	0人	0人	1人	1人	1.0%	自閉症、言語発達遅滞、コミュニケーション障害
22 新田	0人	1人	1人	1人	1人	4人	4.1%	ダウン症、発達遅滞
22 宇喜田	0人	1人	2人	1人	1人	5人	4.7%	骨髄髄膜瘤、脳性麻痺、自閉症スペクトラム
合計	2人	9人	22人	20人	32人	85人	3.1%	

拠点	保護家庭(児相、支援センター関連)					合計	主だった主訴
	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳		
葛西	0人	0人	0人	0人	0人	0人	なし
新堀	2人	0人	2人	0人	0人	4人	ネグレクト、夫婦喧嘩による通報、育児困難
東小松川	0人	0人	0人	0人	0人	0人	なし
鹿骨	1人	0人	0人	2人	1人	4人	虐待(体罰)
北葛西	2人	0人	1人	2人	0人	5人	父の暴力、子どもの泣き声
葛西第二	0人	1人	0人	1人	3人	5人	養育困難
春江	0人	0人	0人	0人	0人	0人	なし
東小岩	0人	1人	0人	0人	2人	3人	パートナーのDV、育児放棄傾向、母親の精神不安定
西篠崎	0人	0人	2人	0人	1人	3人	言葉の暴力、生活援助
西小岩	0人	0人	0人	0人	1人	1人	母親失踪
松江	0人	0人	1人	1人	0人	2人	育児困難
松本	1人	1人	3人	3人	1人	9人	ネグレクト・育児困難
清新	0人	1人	0人	1人	0人	2人	子どもを叱っている声がする
小松川	0人	0人	0人	2人	0人	2人	ネグレクト、母の暴力の疑い
南葛西	1人	3人	2人	0人	3人	9人	育児困難・虐待
西葛西	0人	0人	0人	0人	0人	0人	なし
中葛西	0人	1人	0人	0人	0人	1人	保護者の精神疾患
松島	0人	0人	1人	0人	0人	1人	育児困難
清新第二	0人	0人	0人	1人	1人	2人	家庭環境(父親の母親へのDV、等)
北小岩	1人	0人	0人	1人	1人	3人	家庭内問題による虐待
南篠崎	0人	0人	1人	1人	0人	2人	心神耗弱、虐待
新田	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
宇喜田	0人	3人	4人	4人	1人	12人	ネグレクト、母親のうつ症状による不適切な対応など
合計	8人	11人	17人	19人	15人	70人	

7. 事故件数(事故報告書数)

拠点名	事故報告書件数						通院をした怪我の内容
	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計	
1 葛西	0	1	1	1	2	5	ホールでボールを投げようとしたが、自分でバランスを崩して床に転倒。その際、前歯を強打し通院。歯根破折でした。
2 新堀	5	1	0	0	4	10	肘内障・転倒して歯ぐきから出血・バランスを崩して柵に顔をぶつけて切れて出血・捻挫・打撲など
3 東小松川	2	0	2	4	1	9	布団敷の際シーツカゴ入れに躓き転倒陰部打撲・鉄棒をくぐろうとしたが、距離感がつかめず左目強打目じり出血・ピアノの椅子下部分に頬強打
4 鹿骨	2	4	1	1	0	8	鉄棒支柱にぶつかり左眼2針縫合・トイレ手洗い所にて顔をぶつけたん瘤・ロッカーに顔をぶつけ擦傷・顔のひつかき傷・転倒による顔の擦傷
5 北葛西	0	3	2	2	0	7	柵から転落し、頭部を切った。他児が持っているカゴが目当たりきる。
6 葛西第二	1	1	3	0	1	6	転倒による挫傷・脱臼
7 春江	2	1	2	3	4	12	口内裂傷、顔裂傷、足首捻挫、鼻下擦り傷、顎切り傷、イワシの骨が喉に刺さる、鼻打撲、額打撲
8 東小岩	1	1	2	1	2	7	転倒し口をぶつける(上唇帯を切るなど)、転倒し顎をぶつける。
9 西篠崎	4	0	3	0	1	8	転倒、口をぶつけ上唇帯裂傷。歯茎からの出血・歯の脱臼・バランス崩して転倒し、壁におでこをぶつけたんこぶができた。
10 西小岩	2	0	0	4	6	12	転倒により床に顔をぶつけ歯のぐらつき/よそ見して他園児に衝突し頭部(貌含)をぶつける。
11 松江	1	0	2	2	5	10	スクーターにのり転倒し左目じりを打撲。転倒し柱の幅木にぶつけ頭部を切る。転び口元打撲。ドアにぶつかり鼻を打撲。転倒し頭部を打撲。
12 松本	2	1	2	2	7	14	上唇小帯裂傷・爪下血種・亜脱臼・肘内障・切創・結膜充血・萌出性歯肉炎・咬傷
13 清新	5	7	3	8	3	26	転んで顔を擦りむき、おもちゃが当たって顔を擦りむき、転倒して歯をぶつける上唇小帯が切れ出血、顔、口の打撲ひっかきなど
14 小松川	4	2	2	2	3	13	歯肉裂傷、歯牙破折、右耳道異物、切創、右肘内障、左肘内障、歯牙打撲、右上中切歯
15 南葛西	4	1	1	4	4	14	モンテジア骨折・脱臼・歯の揺れ・たんこぶ・顔の傷
16 西葛西	2	3	1	1	0	7	転倒し、口を地面や床にぶつけ歯茎・唇からの出血、歯の揺れ(外傷性歯の亜脱臼)・他児の玩具があたり裂傷・打撲による鼻血
17 中葛西	4	0	4	0	4	12	打撲(額・耳・頭部)、肘内障、搔き傷(顔等顔面)
18 松島	1	1	2	1	1	6	走って転倒し窓サッシに顔をぶつけ裂傷、3針縫う。はさみを使用した製作中に誤って手を切る。小さな玩具の誤飲の疑い。転んで上唇小帯を切る。他
19 清新第二	2	2	0	0	1	5	転倒により前歯をぶつけた、転倒により頭部を打った、肘内障
20 北小岩	1	0	1	0	1	3	転倒による裂傷 他児との衝突による眼球打撲 滑り台への衝突による歯の損失
21 南篠崎	4	3	4	1	2	14	頭部切り傷、上唇小帯裂傷、顔の傷、上歯茎の傷、歯、あご擦り傷、右手噛み傷、おでこ皮下出血、
22 新田	3	2	2	0	2	9	他児に押され後頭部をぶつけて出血。通院 ・1歳児男土曜保育中園庭でブロック塀に顔をぶつけ出血し通院
23 宇喜田	0	1	0	0	1	2	他児の頭にぶつかって左前歯裏側より出血、転倒した際に、左耳を打撲。、排尿時に少量の出血
合計	52	35	40	37	55	219	

8. ヒヤリハットについて(園児に関するもの)

拠点名	ヒヤリハット(件数)			ヒヤリハットの内容
	乳児	幼児	合計	
1 葛西	80	99	179	早番の際、子どもがラックに上着をかけようとした際、倒れそうになった。けがは無かったが、すぐに見直し固定をするように改善。、各クラスの棚のぐらつき等も確認等。
2 新堀	49	12	61	玄関で靴を履かせている時、扉が開いていた為、一人で先に園庭に出てしまっていた。扉の近くに保育士がつき全体を把握するようにする等
3 東小松川	97	59	156	他児の玩具をほしがり手を伸ばした為鼻から左頬にかけ、つねられた等。 対策(本児の動きを予想し、トラブルになりそうな際は、傍に付き気持ちを代弁していく。)
4 鹿骨	111	116	227	寒さで砂場の砂が硬くなっており、シャベルが折れた。劣化した遊具の確認を定期的に行う。遊び始める前に砂場の状態を確認する。ボールを追いかけ、ボールに乗りそうになる。
5 北葛西	112	39	151	2階から降りる際に、一人ホールに入ったのを気づかずに降りてしまった。ホールのコンセントにティッシュの様なものが詰められていた。玩具の折り合い等で噛みつきがあった等
6 葛西第二	173	314	487	前方不注意による衝突。転倒による打撲。友達とのトラブルによる噛みつき、ひっかき。事前に防げるよう保育士の立ち位置確認。割れた食器の破片が取り切れてなかった等
7 春江	224	247	471	転倒や衝突、遊具からの落下、誤嚥・誤飲等の未遂など。直ちに改善できる場所は環境を整備すると共に、職員会議等を通して未然に予防できるよう、情報の共有に務めていった。
8 東小岩	100	115	215	園庭から室内へ戻った際全員入室したと思い込み、入口のドアを閉めてしまう。再度数確認と周囲に子どもが残っていないか確認をする。 ・口の中に食べ物が残ったまま昼寝に入ってしまう等
9 西篠崎	16	37	53	排泄時、保育士同士声を掛け合う事や個別対応が必要な児に対しては付き添うにする。遊ぶ前に遊ぶ場所の設備点検を行う際、設備周辺にガラスや釘などが落ちていないかなども確認等
10 西小岩	76	81	157	他児とのトラブルで噛みつきそうになる→園児の行動をしっかりと把握すると共に注意を促す。
11 松江	46	65	111	椅子に座りながら後ろに体重をかけ、後ろに倒れそうになったので椅子の座り方を伝えた。転倒やぶつかりが多く、未然に防げるように保育士の立ち位置や環境を整えていく。
12 松本	95	77	172	遊びの中で人や物に衝突しそうになり怪我に繋がりそうだった。環境設定見直しと同時に子どもの動きや状況(気持ちなど)を把握・共有し、職員が見通しを持つなどの確認を行った。
13 清新	258	300	558	かみつき、ひっかき(子どもの気持ちを読み取りかみつき、ひっかく前に止める)転倒で歯から出血(体幹を鍛える遊びを取り入れる、危険箇所を再確認)
14 小松川	80	92	172	環境(落ち着ける環境の工夫)、転倒や衝突(落ち着かない児への個別配慮)、子ども自身の不注意や体幹の弱さによるもの(体幹を鍛えるようリズム遊びを取り入れる)
15 南葛西	30	25	55	午睡中目を覚ました児が敷いてあるゴザを筆り、破片を鼻の中や口の中に入れていた→保育士の配置の見直し、ゴザ等の環境の整備
16 西葛西	278	28	306	階段を拭き掃除した後に1歳児が園庭から戻り、階段を上っている時に滑ってしまった。 非常勤さんに再度拭く時間を確認し、園庭に出入りする時間を避けるようにした。
17 中葛西	115	107	222	走っている時に他児とぶつかりそうになる等の距離感覚や、バランスを崩し転倒しそうになる事が多かった為、運動遊びを多く取り入れた。
18 松島	46	91	137	保育室移動の際に一人トイレに残っていた。人数確認の徹底、行動の把握をする。 玩具や場所の取り合い等によるひっかき、噛みつき。すぐに仲介が出来る場所で見守る。
19 清新第二	95	65	160	仕切りの角に頭をぶつけそうになった、転倒しそうになったり、ぶつかりそうになることが多かった等、環境等の見直し等。
20 北小岩	18	44	62	アルコールスプレーの落下による破損。設置場所の再確認と薬液の使用時の慎重の必要性を再確認した。細目な人数点呼時により園児の所在不明を予防。細目な点呼を引き続き心掛ける。
21 南篠崎	34	56	90	突発的に他児に手を出し、引っ掻こうとした。該当児の行動を職員で共有し、行動観察を行った。ハサミの持ち方が危険であった。椅子に体重を掛け、椅子が倒れる。椅子の座り方を確認した。等
22 新田	230	298	528	細かいおもちゃのかたづけの不備、おはじきの数を確認して管理等。
23 宇喜田	75	196	271	園庭遊び中前方不注意による衝突(他児や固定遊具などに注意を促した)・縄跳びを首に巻いたり、周りの児にひっかかり転倒させてしまいそうになった(安全な扱い方を伝え遊びを見守った)等
合計	2208	2265	4473	

9.研修

※外部研修はWeb研修及び区主催、私立保育園園長会主催研修を含む

拠点名	園内研修		外部研修		法人 必須研 修参加 人数	
	園内 研修 回数	研修内容(具体的な内容を複数記載)	外部研 修回数	研修参 加人数		
1	葛西	5	リミック(カラフルな保育、教育を提供しましょう、防災(消火器、非常ベル操作、放送器具の確認)、AED(消防署職員による研修)、防犯(葛西警察職員による研修)等	26	12人	16人
2	新堀	9	人権擁護のためのセルフチェック、プール遊びマニュアル、AED・不審者対応、マネジメント等	3	1人	14人
3	東小松川	14	保護者支援、子育て支援、小さな子どもにとっての安全基地、発達に特徴のある子どもとの関わり、若手に求められるスキル、前向きに業務に取り組む等	6	6人	15人
4	鹿骨	6	AED、プールマニュアル、嘔吐処理、事故対応(誤嚥・誤飲)、散歩マニュアル、人権擁護等	16	12人	20人
5	北葛西	3	感染症、嘔吐処理研修、AED研修、パソコン操作研修等	16	31人	44人
6	葛西第二	6	プール研修、AED研修、嘔吐処理研修、言葉の研修(3期に分かれて3グループごとに開催)等	4	4人	17人
7	春江	5	人権擁護、危機管理、キャリアアップ研修、小さな子どもにとっての「安全基地」、AED研修	5	7人	19人
8	東小岩	14	人権擁護虐待について、プール・AED、防犯訓練、災害備品の使い方、人数確認等の安全について、等	7	8人	17人
9	西篠崎	5	人権擁護のためのセルフチェック・嘔吐処理の仕方・プール遊び・熱中症対策について・AED・心肺蘇生・不審者対応訓練等	11	7人	17人
10	西小岩	10	安全配慮義務違反研修(園内)、不審者対応研修、AED研修等	3	5人	28人
11	松江	4	AED研修(消防士による指導)、職員消火訓練(園児を含み水消火器を使用し実施)、防犯訓練(警察官による指導)、プール研修(マニュアル読み合わせ)等	20	21人	16人
12	松本	5	「社会人ABCD 傾聴あいうえお」を確認し気持ちよく働くことについて。AED研修(小岩消防署よる講義)・防犯研修(小岩警察署よる講義)等	10	10人	18人
13	清新	14	人権擁護について、リズム研修、AED研修、マネジメント研修から、電話対応、自然を楽しむための関わり、嘔吐処理について、プール水遊びについて等	26	35人	17人
14	小松川	16	人権擁護、保育指針、AED、嘔吐処理、保育充実、消防通報と消火訓練、不審者対応、保育とおもちゃ等	10	12人	19人
15	南葛西	8	就学前計画、園外保育、散歩 AED、人権擁護、年齢と発達、いいとこどり研修(職員間のいいところを探す)、法人ドレスコード、不適切保育等	5	21人	15人
16	西葛西	11	園の特色について、保育者の専門性、下痢、嘔吐処理、人権擁護・虐待対応マニュアル、怪我の対処法・ドキュメンテーション、危機管理マニュアル・保育所の役割・保育の振り返り等	21	19人	19人
17	中葛西	6	人権擁護、嘔吐処理、AED・プールマニュアル、散歩・リズム遊び等	6	47人	18人
18	松島	5	園目標・法人基本理念について、虐待、人権擁護(子どもへの声掛け)、プール・水遊びマニュアル、AED研修、職員のマナーについて等	10	11人	17人
19	清新第二	3	発達コーディネーター研修、子どもと楽しむわらべうた、子どもにとっての安全基地、若手に求められる3つのスキル、発達に特性のある子どもとの関わり等	9	18人	15人
20	北小岩	2	AED、不審者対応等	5	5人	17人
21	南篠崎	9	法人基本理念、今年度事業計画について、与薬、散歩コース、公園リスト、AED、心肺蘇生について、虐待について、嘔吐処理、発達障害児のためのSSTについて、乳児保育について等	23	51人	17人
22	新田	8	不審者対応、救急救命、かみつきひっかけ、嘔吐処理、土曜日、合同保育時のヒヤリを考える、保育と玩具等	10	11人	16人
23	宇喜田	9	嘔吐処理、子どもの人権、AED取扱い、プール活動マニュアル、災害の備え・気になる児の対応、子どもの遊び、災害の備え等	10	23人	15人
合計		177		262	377人	426人

担当園長	長谷川・榎本・小笠原・今井・猪狩・神宮・高橋 担当幹事:橘田		
取り組み内容	具体的な内容	取り組み期間(時期)	評価
<ul style="list-style-type: none"> 理念の理解 	<ul style="list-style-type: none"> 理念の文章の内の養護に関する文章から、おひさまの養護を考える。 主任が中心となり、1歳児担任と保育指針の振り返りを行った。 担当園主任が他園に行き、養護の視点で保育を見た後、意見交換をした。 	通年 7月～ 9月(主任会) 9月(打ち合わせ) 10月～11月(訪問) 11月(報告会) 2月(理念について)	<ul style="list-style-type: none"> 保育指針の振り返りをすることで、どのような関りが良いかを場面に応じて考えるきっかけとなった。 保育する上で各園「養護」を大切にしている事に気付いた。 快適は心の安定 身近にいる大人との安心出来る関わり 次年度は各園で取り組みながら、全職員に広げていく。
<ul style="list-style-type: none"> プライベートゾーンについて 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本を購入し、各園で周知した。 	7月～8月	<ul style="list-style-type: none"> 夏のプールの時期に合わせて取り組み、保護者の方にもご理解頂いた。
<ul style="list-style-type: none"> 災害対策 	<ul style="list-style-type: none"> 訓練計画 災害用伝言ダイヤル訓練を実施した。 	6月	<ul style="list-style-type: none"> 参加される方も多く、災害時の連絡方法について確認する事が出来た。
<ul style="list-style-type: none"> 安全管理 	<ul style="list-style-type: none"> 法人総合防災訓練 →発生時間は園長のみ把握 連絡手段としてiPhoneを使用する 当日法人からの指示で動く 各園に発信 職員緊急連絡先作成 AED研修 法人マニュアル作成 「熱中症対策に関する運動遊び実施の目安について」見直し 事業継続計画、安全計画の作成 	11月 5月 6月	<ul style="list-style-type: none"> 災害時、臨機応変に対応出来るよう、今後も様々な状況を想定した訓練を行っていく。 プール前に全職員AED研修を行い、事故防止に繋がった。 全園共通のマニュアルが完成した。職員に周知をしていく。 全園共通ですべき事が明確となった。毎年見直しをし、改定日を記載していく。
<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策 	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス、インフルエンザ等、社会の状況に応じて感染症対策及び保護者周知をした。 		<ul style="list-style-type: none"> 保護者の方の協力を得ながら、感染症拡大防止に務めた。
<ul style="list-style-type: none"> 食について 	<ul style="list-style-type: none"> 残食量計量(8園) 枝豆栽培、味噌づくり 魚の解体 「法人の給食を知ろう」研修 	9月、2月 6月～1月 11月 2月	<ul style="list-style-type: none"> 食育活動を意識して行うことで、 9月(平均19%) →12月(平均14%)5%減。 職員の意識が変化した。 食育は保育の一部と捉え、子どもたちと食について考えたり、野菜に触れたり、栄養を学んだ。 栄養士の思いを知り、職員の意欲が増した。
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 全職員へ法人理念の周知と浸透。 「愛着」「環境」についての研修を実施予定。主任・副園長の取り組みを基に、新規採用職員対象研修。 園内研修や養護に関して学ぶ時間の共有と各園の情報交換(主任研修)。 江戸川区保育の質のガイドラインの理解。 「安全計画」「事業継続計画」を基に実施。 「SDGsを踏まえた安全で安心な給食の提供」の取り組み。 各園給食担当者を決め、打ち合わせを行う。 		

<p>担当園長</p>	<p>中村・藤森・川田・狛・守田・杉本 担当幹事:藤ノ木</p>		
<p>取り組み内容</p>	<p>具体的な内容</p>	<p>取り組み期間(時期)</p>	<p>評価</p>
<p>・理念の理解</p> <p>・キャリアアップ研修</p> <p>・副主任選考</p> <p>・キャリアアップ研修修了証の管理</p>	<p>理念の文章のうちの教育に関する文章から、おひさまの教育とは?と考える</p> <p>・新卒.1-4年目職員 昨年同様業者に依頼して、オンライン研修を行った</p> <p>・5年目以降職員 講師 岩城敏之先生 対面研修と園訪問指導を行った</p> <p>・リーダー層 講師 酒井康年先生 小沼美和先生 気になる子の発達支援について</p> <p>・副主任 昨年同様業者に依頼して、オンライン研修を行った</p> <p>・主任・副園長 講師 遠藤利彦先生</p> <p>・園長 講師 遠藤利彦先生</p> <p>・副主任の昇任試験の募集ポスター、問題作成の提案、採点の一部を行った</p> <p>・共有フォルダで管理した</p>	<p>9月 2回 11月 2回</p> <p>10月 1回 11月 2回 1月 2回</p> <p>1月 2月</p> <p>11月</p> <p>2月</p> <p>11月・2月</p>	<p>・9月には、延べ20名、11月には21名が参加して、理念の文言の理解にはじまり、保育内容との関連について、話し合った。久しぶりの対面での研修にもなり、副園長、主任が少人数でグループワークをしながら考える研修になった。</p> <p>・昨年の業者に引き続き依頼して、体系だてたプログラムに参加した。122名参加 ・90名参加</p> <p>80名参加</p> <p>54名参加</p> <p>34名参加</p> <p>23名参加</p> <p>・昨年同様応募数が伸びている。挑戦してみることができるように、ポスターを作成して、応募しやすくしたことの効果と思われる。(R3年 23名受験 R4年対象者107名のうち全体の25%の28名が受験、合格者は約3割)</p> <p>・数字を共有でき、自園の職員の参加の状態の把握をした。</p>
<p>次年度に向けて</p>	<p>・理念・保育目標に沿った保育園像の実現に向けた提案 「理念の理解においては、全園が同じように研修などをして浸透させていくことをねらいにする。 ・各園の保育内容・保育環境の整備 理念の教育は遊びであることに着目し、遊び＝教育という視点をより深めて考えていけるようにする。 ・江戸川区の保育の質の向上ガイドラインの理解 各園で保育の質向上ガイドラインの理解に向けた園内研修のすすめを行う。</p>		

<p>担当園長</p>	<p>彦田・高石・山崎・森・齋藤 担当幹事: 山岡</p>		
<p>取り組み内容</p>	<p>具体的な内容</p>	<p>取り組み期間(時期)</p>	<p>評価</p>
<p>・理念の理解</p> <p>・子育てひろばについて確認</p> <p>・出張子育てひろば (旧称: 出前保育)の取り組み</p>	<p>・理念の「子育て支援」の文章から、おひさまの子育て支援とは？を考えた (担当園の園長・主任)</p> <p>・子育てひろばの名称、表記、実施回数等を再確認した ・名称「おひさま子育てひろば」 ・「ひろば」漢字ではなく平仮名表記する ・月2回の実施を基本とする ・毎月初に2ヶ月先の予定までホームページに掲載する ・各園の実施状況がわかる一覧を作成(実施日、参加人数等) ・子育て支援関係の実施記録用紙を法人統一書式とした</p> <p>・園内で行っていた子育てひろばを園外(近隣地域)でも実施した(担当園7園) ・名称は主任を中心に親しみやすい5つの候補をあげ、各園にアンケートを取り「出張☆おひさま子育てひろば」と決めた</p>	<p>10月～2月</p> <p>6月～3月</p> <p>10月～3月</p>	<p>・子育て支援とは何か？法人理念に出てくる言葉を調べ読み解いていく取り組みは、「子育て支援」について共通理解をする良い機会となった。</p> <p>・子育て家庭に子育ての喜びと幸せを感じて貰う為に保育園が拠点となり何が出来るか、しっかり考えて動いていく事が大切であり、今後の課題と感じている。</p> <p>・23園の子育てひろばの名称や表記を揃えた事で同じ法人が運営している統一感が出て良かった。 ・今後の予定を掲載する事で利用を検討している方々にも情報の提供が出来た。 ・各園が内容等を含め計画的に進められている。 ・子育て支援に関する複数の記録用紙が1枚に収まり統一された。</p> <p>・園外での活動の為、その日の天気や気温も考慮し企画した。</p> <p>・近隣のおひさま保育園にもチラシ配布の協力を依頼、周知の工夫をした結果、7園で合計31家庭61人が参加、絵本、手遊び、リズム体操等の活動を楽しんだ。今後、全園実施に向けて進めて行く。</p>
<p>次年度に向けて</p>	<p>・理念の理解について周知を図る ・子育て支援の在り方、実践に向けた職層別の職員研修を行う ・出張おひさま子育てひろばの定着(おひさま保育園を知ってもらう) ・在園児家庭に対する子育て支援の取り組み(保護者向け研修の企画など)</p>		

1. 事業計画に基づく総括

・引き続き感染症対策を行い前年度よりも多くの行事を創意工夫し開催できた。
運動会は小学校の校庭で全学年親子共々参加したり、乳児の発表会を親子で楽しめる会にし身近に参加できて良かったと好評だった。
・各クラス年齢に適した玩具や保育環境を設定しているが、保育士が子どもの興味や関心を理解した上での関わりや言葉がけが少なく感じた。今後一人一人とじっくり関わり、保育士のスキルをあげられる様にする。
・幼児クラスは人数が多いので、保育士主導型の声掛けがあるので子どもが主体的に生活できる工夫を行い、子ども達も職員も楽しいと実感できる保育になるように常に意識していく。
・全職員の体制が厳しい中、職員同士が連携し知恵を出し協力しあったが、人間関係・保育観の違い等で退職者が出てしまった。今後は更に職員とコミュニケーションを図り意見を聞き未然に防げるようにしていきたい。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

・外国籍の子ども、保護者への対応はノートやアプリ等を使用し対応、言葉の壁により大切な事が伝わらずコミュニケーションの難しさを実感、指示が伝わらない事もあるが丁寧に対応してる(養護)
・活動は、得意な保育士がピアノを弾いて年間を通しリズムを実施したり、ボール遊び、サーキット等の取り組みを行い、子どものリズム感・反射神経が向上し興味関心を高められて楽しんでた(教育)
・子育てひろばは、楽しみにしている地域の方がいるので、月に2回人数を制限し実施した。ハロウィンやもちつき会、リズム等園行事に触れ合えると好評だった。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

・新規、異動職員も多い中、職員が同じ方向に向かえるように会議を行い情報を共有し、チームワーク力を高めていく。(毎月計画を立てリーダー会議・園内研修も充実する)
・園児管理システムやブログ等でクラスの日々の活動を掲載している。今年度は保育のドキュメンテーションを毎月玄関に掲示をし子どもの成長や興味を掲示したり、行事後はアンケート機能を使用し保護者の意見を聞いてより良い関係性が出来るように目指していく。
・選ばれる保育園を目指し、「出張☆おひさま子育てひろば」を実施し、おひさま保育園をアピールできるような取り組みを行う。
・昨年度に引き続き、食育活動を園全体で行う。子ども達が食材を見て触れていつでも五感を感じながら成長できるように進めていく。

4. 利用者アンケート 評価と改善

・子どもが伸び伸びと温かい雰囲気。コロナ禍の中での保育や行事等も工夫していると総合的に満足の評価を頂いたが、毎日の登降園時の子どもの声掛けや伝達で職員の対応に差があるという意見が多かった為、全体会議で話し合い保護者に寄り添い丁寧に関われるよう一人一人が意識し改善できるよう努力している。
・正門が開いたままの状態だと危険であると意見が出た。直ぐに園便り・保護者会で周知。登園時には門に立ち声掛けを行い、子ども達の安全面を強化した。

5. 職員アンケート 評価と改善

・職員同士が協調し合い、職場の雰囲気が良いが、休憩が取れない、仕事量が多い、経営層の職員に対する関わり方等に意見があった。組織の一員としてどうすれば休憩が取れるか、働きやすい職場になるか、みんなで考えて解決できるよう話し合い改善していく。
・子どもをあだ名で呼んだり、呼び捨てになっている職員がいるので今後は無いように気を付ける。

1. 事業計画に基づく総括

- ・年齢にあった保育の取り組みについて定期的に話し合いを設けることで、職員が同じ思いで保育に向き合える環境が出来た。休憩時には、保育士同士、アドバイスし合う姿が多くなっている。
- ・良好な人間関係に繋がるよう、空いた時間を利用して園内研修を細目に行ったことにより、自分の行動や保育感を振り返れるよう機会を図り、意識の向上を図った。
- ・日常の様子を園児管理システムでの配信にも慣れ、スムーズにこなす職員が増えた一方、細やかな個々の出来事やエピソードなどを直接保護者に伝えることに苦手意識を持つ職員が多くいることがわかった為に、園内研修を行った。
- ・保育室をはじめ共有の場所の片付け等、職員側から声が上がりに、環境づくりに積極的な職員が増えた。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・児童相談所からの報告を職員会議等で情報を共有。発達に課題ある子どもの対応等、他機関や心理士に相談しながら一人一人にあったより良い保育を全職員で模索し提案した。(養護)
- ・知育玩具を積極的に取り入れ、幼児は特に机上遊びが充実した。(教育)
- ・公園へ積極的に散歩に出かけたことで体力もつき、近隣の方への挨拶なども習慣になった。(教育)
- ・保育園の虐待のニュースが報道されている中、安心して通園出来るよう、保育所体験は、入園希望者内定者に、入園に向けての不安や相談の機会を多く設けたことで、保育園の状況を知ってもらえる良い機会となった。(子育て支援)
- ・コロナ渦の長期化により子育てひろばの参加人数が少なかった為、今後更にブログや地域の施設への情報発信などを行う工夫が必要と感じた。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

- ・社会の様々な状況の変化等様子を見ながら、地域とのつながりや、異年齢児との交流や様々な体験を取り入れて行く。
- ・会議等の報告だけではなく、日々昼礼時などでヒヤリハットや、個々の成長の気づきなど、情報の共有をしていく。
- ・紙面や園児管理システム等、ドキュメンテーションを取り入れ職員間で共有。職員に保護者への伝達以外の会話のきっかけを掴めるようにして行く。
- ・職員、保護者ともに便利さなどに気づける様に積極的に活用。(ブログ、日々のおたよりの充実)
- ・未就園児や近隣の子育て世代にも園での活動を知ってもらえるよう情報発信など行う。
- ・出前保育にも職員とアイデアをもって積極的に取り組む。

4. 利用者アンケート 評価と改善

- ・送迎時の伝達に加え、子どもの様子を伝えることを引き続き取り組んで行く。
- ・必要な伝達やお願いも相手の立場になり思いやりをもって接していけるようにする。
- ・コロナ前の行事に戻って欲しいとの要望がある為、法人統一なども踏まえ検討し見直していく。

5. 職員アンケート 評価と改善

- ・報連相が不十分な部分があり、開けた場所(会議など)で話す機会を多く設け、担当クラス以外にも、目を向け助け合う意識が高まった。
- ・職員の思いに耳を傾け、働きやすい環境づくりを心掛ける。ベテラン新人関係なく意見を言い易い環境を作り、コミュニケーションが取れるようにしていく。

1. 事業計画に基づく総括

・昨年同様職員の異動、新規採用と既存職員との保育観を共有し合えるよう各種会議等行ない、保育の視点や疑問等話し合い子どもに対して丁寧な関りや声かけが出来るよう、安心出来る居場所作りを意識した。
・幼児は、主体性を引き出せるように子どもたちが興味を持ち取り込めるような活動内容に配慮し、乳児に関して一人一人の成長により生活の基盤を作れるよう保育を考えた。
・感染症対策の為、行事等の縮小があったが子どもの為にどこまで行えるか、職員全員で話し合い保育に取り組むことが出来た。様々な決まりごとに対して、全職員が確認できるよう、決定事項伝達ノートを作り伝達を徹底した。
・保護者が子育てに自信が持てるよう、保育参観等を、子育ての楽しさを実感できるように成長の様子をその都度お知らせした。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

・玩具、備品や部屋のレイアウト等、職員で年齢に応じた玩具、備品、レイアウトを職員全員で考え、計画を立て環境作りを行った。(養護)
・職員会議等で話し合い、保育士の優しい言葉掛けや穏やかに接する事で、愛着形成や安心して過ごせる環境、場所作りを職員が意識しながら共有したことで、子ども達が安定して過ごすことが出来た。(養護)
・子どもの気持ちに寄り添う事を主題にして状況報告、わがままがどこまでか、どこまで気持ちに寄り添えるか、子どものエピソードや行動を交えながら話し合った。(養護)
・登降園時や個人面談等で保護者の話に耳を傾け、保育園生活の生の声を知らせる事で保護者に保育園の様子が分かるように支援した。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

・新型コロナウイルスも5類引き下がり緩和され今後の行事や活動も通常になる中、前年度会議や共通に話し合った事を生かし保育活動に繋げていく。
・環境設定は、引き続き職員共有で、年齢や個性に応じた玩具や部屋のレイアウトの確認を行いながら取り組み施設の安全確認を強化し、補修や改修箇所を見極め計画していく。
・引き続き職員間一人一人を認め合いのチームワークの強化に意識を持ち園内研修や外部研修を通して寄り添い流れる保育の具体的な取り組みを学び職員全員で共有できるように努める。
・保護者との日常会話を大切にし、成長を共有しながら喜び会える関係を築いていく。掲示や保護者用アプリの活用、ブログでの情報発信をして行く。

4. 利用者アンケート 評価と改善

・コロナ禍行事や外部講師の和太鼓、英語が延期や中止になる事があり残念だった。
・質問に対する答えが職員によってまちまちであった。報告、連絡、相談の徹底を再確認した。
・コロナが、緩和・解除されたら試食会をしてほしい。
・年々の変化する保育内容やシステムに対しての説明不足を感じる。様々な変更等理解してもらうように保護者会やクラス懇談会等で説明していく。

5. 職員アンケート 評価と改善

・情報共有が時折途中で止まってしまい、細部まで伝達されていない事がある。各クラスにて伝達ノートを作り必ず伝達するようにした。
・職員が協調性を持ち、保育を行い、相手を認める方法について研修を行った。
・若い職員や他園からの異動者も来た事で、保育や生活等のやり方を見直したり、会議では職員が意見を言えるようになった。

1. 事業計画に基づく総括

・「子どもの人権を守る」「保育者の言葉使いに留意する」「快適な保育環境を設定する」の目標を掲げ、全職員で複数回の人権擁護のセルフチェックを実施し、お互いに声を掛け合い、自身の関わり方を自覚し、職務に臨んだ。園内研修ではNGワードや声のトーン、伝え方や気持ちのコントロール等、互いに意見を交換し不適切な関わりについて確認した。大きな声や、話が長いと感じる場面が時折あるので、大人も深呼吸しながらお互いに声を掛け合い気をつけていく。

・保育環境も必要に応じてクラス担任だけに留まらず、意見を出し合い改善に取り組んでいる。進級時の乳児クラス編成なども職員から声が上がリ、子どもたちの生活を見通して変更した。

・職員間で目的を共有する為に、より風通しの良い職場となるよう確実な休憩の獲得・個別の仕事時間の確保、行事の進め方や体制表の改善等、小さなことから少しずつ取り組んだ。どうしたら子ども達への時間を確保しつつ業務の改善が出来るか、子どもと笑顔で過ごす為に職員の気持ちを大切に、声を聞きながらコミュニケーションを図った。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

・基本的な感染症対策を徹底し、感染拡大に留意したが、インフルエンザの流行は止められなかった。(養護)

・異年齢での活動を少人数で再開し、手洗い講習やポニーの出張等、コロナで制限される中でも楽しめる活動を意欲的に行った。(養護)

・配慮の必要な子どもが多数在籍している為、個の特性や対応方法、保護者支援等、園全体で考え、悩みを共有し話し合いを深めることが出来た。(養護)

・月反省会議は自己評価を含めた反省を行うことに改善し、子どもの思いを大切に保育する事を心掛けた。

・子どもたちの姿や園での様子、何を考えてどんな風を感じているのか等、また、職員の願いを伝えることを意識して掲示物の準備をした。少しずつだが保育の思いが伝わっているように感じている。保護者意見に対しては背景を検証し、職員と話し合い、改善・説明等迅速に対応した。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

・健康的に生活する為に、基本的な感染症対策をした上で、体操・リズム・外遊び・散歩等、全身を使って伸び伸び遊ぶ環境を整える。又、自分の身体を知り、必要な栄養などに興味を持ち、食育を通して元気に遊ぶよう働きかける。

・四季や自然に触れながら、見たり感じたりした事を表現できる機会を多く持てる様、戸外活動を活発にしたり散歩を強化し、健康に過ごす。

・異年齢児交流を通して年齢の違いに気付き、思いやりの気持ちを育み、友達や自分を大切にする。

・不適切な保育が注目されている今、保育を振り返るきっかけとし継続的に人権擁護のセルフチェックを実施する。「江戸川区保育の質のガイドライン」を活用し、子どもたちにとって快適な生活となる場所にしていく。

・保護者が保育園の活動に関心が持てるようICTを効率的に活用し工夫し、保護者理解を深める。

・地域の未就園児家庭とも積極的に関わり、子育て支援をしていく。

4. 利用者アンケート 評価と改善

・コロナ禍で限られた活動になっていたことが課題となっていたが影響の少ないことから改善した。行事は時間や参加人数、内容を精査し、感染対策をしながら実施した。

・子どものトラブルや怪我に対する不満には前後の背景や、至るまでの状況、お互いの子どもの気持ち、今後の環境や保育の改善策を丁寧に説明しご理解いただけた。決まった子のトラブルが続き、職員も気持ちが疲弊しつつあったが、保育の方法について改善策を話し合い、子どもの成長と共に落ち着いてきた。職員と共に考えフォローしていきたい。

5. 職員アンケート 評価と改善

・改修工事で、園舎が綺麗になり生活がしやすくなった。しかし、細かい破損箇所や古い家具を改善して欲しい。予算とのバランスを見ながら必要なことは順次改善に取り組んでいる。

・年齢職歴の差に関わらず意見を言える環境、人材が増えた。職員の考えが反映され、行事が行えるようになった。

・休憩の確保、業務の軽減。

・非常勤職員との共通理解が課題。時間の共有が難しい為、共有ファイルや掲示板を設置した。AED研修などは時間別に分け実施した。

1. 事業計画に基づく総括

- ・危機管理では、屋上等不十分な箇所(4カ所)に鍵を設置した。屋上には、夏期以外の時期には、プールとの仕切りを設置し、遊ぶエリアと区切り安全を確保した。
- ・1月にはインフルエンザが流行、コロナ感染については、年内までで収まっていった。
- ・園内研修でAEDの扱い方や、消防への連絡を全職員が経験する実践研修を行い周知を図った。人権研修では正規、非常勤共に資料を読み込み振り返りを行い、意識を高め保育に活かせるように進めた。保育実践に向けリズム研修を行い習得した。
- ・毎月の子どもの状況報告会議は全職員を対象に、他クラスについても情報共有、又日々昼礼で保育のエピソード発表を、子どもの姿や行動を観察する視点を発表した。しかし多く課題が残った。
- ・地域の中の保育園として、近隣住宅や施設に園便りや行事に向けての手紙配付等を積極的に行い、保育園の行事や活動に理解を得られるよう努めていき、保育園との関わりを持つことができた。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・子どもの動線や興味を考え、保育室内のコーナー設定の見直しを進め、遊びの展開や子ども同士の関わりを観た。また、年間指導計画を子どもの発達を踏まえているかの確認をし見直した。(教育)
- ・子どもの主体性や一人一人の興味、関心に沿った保育という点では、年長クラスでは、運動面や手先を使った遊びに興味が深まり、縄跳びやステッピホッピングに取り組んだり、けん玉やラキューに集中し、個々の成長の幅が大きく達成感に繋がっていった姿があった。そうした自信が他者を認めることにも繋がり、就学に向け意欲的な姿になった。幼児クラスでは日々の生活の中でも、発達の連続性を踏まえ、体を動かす技能を発達させるための運動を取り入れていくように、保育士の意識も変わっていくきっかけになった。(教育)
- ・園児管理システムを使い、日々の配信では、写真を活用して保護者にも目に見える形で子ども達の姿や雰囲気を感じてもらえるよう努めた。(子育て支援)
- ・子育てひろばでは、育児相談も同時に行い、継続して参加してもらえることに繋がっていった。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

- ・日常の生活の中で戸外に関わらず園舎内でも人数把握を意識すること、また、職員同士の声掛けで立ち位置等の配置を把握をする等の重要性を理解していくことを周知できるよう努めている。
- ・子どもの人権について、昼礼や毎月の会議の中で触れ、不適切な対応に気づけるようにしている。
- ・園内研修や資料等を活用し、常に意識を持ち保育に向かえるよう配慮していきたい。講師だけに頼ることなく、乳児、幼児ともに保育士による体操遊びとリズムを積極的に取り入れていく。
- ・食育について、全学年での活発な取り組みをしていきたい。畑でのさつまいもの栽培は、より自然に関する機会をつくり、5歳児だけで無く、全園児の取り組みとして変更、植物の植え付けや水やりを通して生長を実感できるような機会を作っていくよう取り組んでいきたい。
- ・子育てひろばを園舎内の活動のみから、戸外の地域活動として「出張☆おひさま子育てひろば」として取り組んでいく。
- ・個人面談については、子ども理解を進めるために個々に必要であると感じた園児については、園から積極的に声掛けをして、保護者との共通理解を深められるよう配慮する。

4. 利用者アンケート 評価と改善

- ・提供される給食については、個々への対応や工夫されたメニューに概ね満足の評価があった。行事食のブログアップや献立のプリントを玄関に用意する等継続していきたい。
- ・戸外遊びについての要望多く、戸外活動も積極的に取り入れ、身体づくりに繋げ怪我の抑止を目指す。また、運動遊びでは、体幹を意識した動きを保育士自身も学び、保育に活かしていきたい。

5. 職員アンケート 評価と改善

- ・全職員が情報共有ができるよう、業務日誌の開示を行うことで、職員間の溝がなくなり、同じ職場で力を併せるという意識が高まったように感じ継続していく。
- ・職員から休憩についての意見があったが、事務所サイドが把握し、補助に入る等して保障していくよう配慮した。
- ・クラス運営や行事の係、会議等が多く負担が大きいという意見もあり、行事の進め方や取り組み方を見直していきたい。

1. 事業計画に基づく総括

- ・コロナをはじめとする感染症対策を行い、施設(自動水栓等)を見直し、健康で安心して過ごす生活が、子どもの成長や教育のベースになる事を念頭に置き、健康管理を心がけた。
- ・子ども一人一人が遊びこめる環境づくりを考え、遊具の準備がしやすいよう整備を行うことで、使用頻度が増えて、ホールやテラスでの遊びが広がった。保育士も子どもも使いやすく、意欲的に活動し過ごすことを意識した。
- ・日々の子どもの様子を保護者と職員の間で共有できるよう、丁寧な対応を心掛けた。
- ・お便りや朝夕の会話に加えて、掲示板の工事を行うことで、保護者が保育内容や地域施設の情報が見やすくなり、地域にも情報を伝えやすくなった。
- ・保育園が子どもを中心に保護者も保育士も一緒に過ごす豊かな生活の場になるよう様々な活動に取り組んだ。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・健康管理について、感染症の情報を掲示や園児管理システムお便り機能を利用しこまめに発信を心掛けた。(養護)
- ・クラス会議を通して、子ども一人一人の成長を見定めそれぞれに必要な援助を行った。
- ・支援を必要とする子どもには、巡回指導の結果を全員が共有し日常から言葉がけを意識した。また日常の職員の言葉がけについては、振り返るとどうしても否定的な言葉かけが多くなりがちだった。(養護)
- ・肯定的で優しい言葉を意識できるよう、非常勤も含め園内研修を行った。(教育)
- ・園児管理システムお便りには、写真を掲載し、言葉と共に具体的にわかりやすい伝達を心掛けた。(子育て支援)
- ・人数制限をしながらも、保護者と共に行事を楽しめるようになってきた。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

- ・法人共通の取り組みである、SDGsを踏まえた「安全で安心なおいしい給食」の提供について、お腹がすくことを体感する、食に興味を持つ事、給食業者と連携を取り無駄のない給食提供を心掛ける。
- ・理念、保育目標を軸にして、江戸川区の保育の質ガイドラインを活用しながら保育を展開していく。
- ・感染症の情報は、掲示や園児管理システムを利用して引き続きこまめに保護者に提供するようにする。
- ・手洗いの大切さをしっかり伝え、感染症を防ぐ。
- ・乳児においても温座の工事を行い、衛生的で快適な環境を作る。
- ・掲示板の活用も一つの方法として、タイムリーに写真と共に具体的な子どもの活動を伝えるようにする。
- ・運動用具を活かして、ホール及び園庭での遊びが充実できるよう工夫する。
- ・園内研修で行った、言葉がけについては、職員全体で肯定的で温かい言葉がけや関りを意識する。
- ・言葉を意識するうえでは、絵本の読み聞かせやわらべうたなどから豊かな感性を育めるようにする。
- ・保護者が保育園の日常の生活を知り、行事では保護者も子どもと共に楽しめるようにした内容にしていこう。

4. 利用者アンケート 評価と改善

- ・毎月園便りで記載しているクラス目標についての記載が分かり難いというご意見があった。改善にむけて、クラス担任が子どもの姿や成長をしっかりとらえ、振り返るチャンスにもなるので、具体的で活動例がわかりやすくなるように記入。またタイムリーに園児管理システムでも目標に向かう取り組みを写真も加えて伝える。

5. 職員アンケート 評価と改善

- ・有休の取得や休憩時間の確保が出来ていないという意見があった。改善に向けて、人材確保とクラス配置の体制づくりはもちろんだが、職員同士の声掛けやノンコンタクトタイム確保の意識の向上を職員全員で行い、協力する事が、職員の主体性をも育めると考えている。

1. 事業計画に基づく総括

- ・不適切保育への取組みとして、子どもへの声掛け、態度、表情が適切であるかを職員会議において、具体例を用いて見直しを図り改善に繋がった。
- ・保護者に対し、保育園側からの依頼や協力事項が多かったため、可能な範囲において保護者の状況を踏まえ対応を行い、保護者が安心して利用できる保育園になるよう務めた。
- ・子ども達が安心して生活できる環境を整えるため、保育室内の備品や遊具等の廃棄や入替えを行ったことにより、改善してきているが、遊具の設置内容の検討が必要である。
- ・年間保育計画において、生活面(排泄・食事)が年齢毎の繋がりが明確になっていないため、次年度の計画作成時に調整会議を重ね、状況に即した内容にした。
- ・新型コロナウイルスの対応方法が徐々に緩和され、年度末には通常保育への移行とされたが、他の感染症(インフルエンザ)の警戒もあり、なかなか難しい状況となった。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・感染対策により、他クラスとの交流制限を行い、行事の縮小や保護者参加の制限によって本来の活動ができない状態が続いた。(養護)
- ・遊びや活動内容の縮小により、閉鎖的な雰囲気にならないよう、保育内容や職員の情報共有に努めながら進めた。
- ・各年齢(クラス)の保育計画や内容に照らし合わせ、個々の状況に合わせた保育展開が行えるよう、計画の見直しを行った。(教育)
- ・体育講師と年間実施内容を確認し、定期的に活動内容及び補助方法の統一化を図った。乳児クラスの内容が、普段の保育で実践されているものであるため、来年度より幼児クラスを主導で行うこととする。(教育)
- ・製作やゲーム遊びなど、創造性や技術面、社会性を育み、経験を積み上げることを目的とし進めた。(教育)
- ・保護者との関わる時間が少ない状況であったため、個人面談時の時間や内容について基準を設定し進めた。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

- ・通常保育への移行に伴い、年間保育計画を年齢別の内容及び進級時に繋がりのある計画となるよう、担当クラスごとで作成するのではなく、全職員が幅広い視点を持って話し合いで作成する。
- ・生活面で、排泄、着脱、食事面に重点を置き、発達状況に即した援助を図るようにする。
- ・職員は笑顔、言葉使い、表情を意識した子どもへの対応や、子どもの表面的な変化や内面的な様子に気付けるよう意識を持って接していく。
- ・保護者が感じている不便さや不安感を把握し、受容な態度で関り、改善に繋がられるよう努めていく。
- ・他クラスとの交流を行事だけでなく、散歩や活動内容で多く取り入れ、子ども同士の関係性が深められるよう、計画的に進めていく。
- ・行事や保育参観等の人数制限をなくし、子ども達の様子が保護者や家族の方々へ伝わるようにしていく。

4. 利用者アンケート 評価と改善

- ・不審者対策の強化に対し、死角を無くし見通しをよくするため、園内道路側及び保育園前の公園内樹木の剪定を行った。又、園庭門付近を明るくするためライトを設置した。
- ・登降園時の職員対応において、保護者がテラスへ上がっていたが、職員がテラスへ出て対応することとした。
- ・これまで、シーツの持ち帰りのため、あずま袋の持参をお願いしていたが、手提げ袋の併用で対応することとした。

5. 職員アンケート 評価と改善

- ・年齢別の保育や行事において、職員間の情報共有や連携が図れない状況があり、保育の進め方や内容について職員会議などで方向性を明確にするようにした。
- ・その反面、職員個人の意見で個別にできなくなり、自由度がなくなったとの意見も聞かれた。
- ・保育内容や行事内容については、子どもの姿を大切に考え、保護者と職員との関係性を深めながら向き合っていく。

1. 事業計画に基づく総括

・コロナ禍が影響し、子ども達の基礎体力が低下していた。身体を十分に動かして遊ぶことを心掛け朝夕の時間にも園庭で遊べる環境を整えた。散歩も積極的に活動に取り入れていった。(例年よりも遊びの中で子ども自身が転倒する姿が多かったことから、コロナ禍で十分に身体機能が伸びていなかったと考えられる。)
・昼礼を活用し職員が保育の振り返りを積み重ねた。また、行事はコロナを踏まえ考えてきたことが、結果子ども達にとっての行事の在り方を学ぶ事に繋がった。
・当たり前の日常に焦点を当てて、挨拶を意識した。朝夕の挨拶を元気に交わすことが出来、園の雰囲気も明るくなった。また、感謝を伝えるありがとうも職員が日々の生活の中に置くことで、優しい心を育んでいった。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

・安全対策、感染症対策の継続・人数確認・不適切な保育について園内研修を通して周知徹底を図った。(養護)
・体力の向上を目指し、積極的な戸外活動、体操教室、竹馬の取り組みに力を入れた。(養護・教育)
・子育てひろばの参加者の増加、リピーターの定着が見られた。(子育て支援)
・保護者会、個人面談の実施。送迎時の漏れのない伝達や和やかな雑談を意識し、保護者と共に考えていくという姿勢を大切にしたい。(子育て支援)

3. 総括をけて、今年度の活動への展開

・法人理念、保育目標の理解を深め、法人理念、保育目標を意識した保育を行う。
・コロナ脱却の年として、前進すると同時にコロナ禍で得た保育を活かした取り組みを考える。
・遊びの充実 遊び環境を様々な角度から学び、実践へと繋げる。計画に基づいた玩具等の購入。
・元気に挨拶を交わす、異年齢交流を通して思いやりを育む。
・体を存分に動かして遊ぶ。身体機能の発達を促すと同時にお腹が空く、給食への興味が高まる、自然な流れで食育、食への興味へと繋げていく。
・子育てひろばの認知を広げる活動を行う。(出張☆おひさま子育てひろば)
・小学校との連携をとり、なだらかな就学移行を目指す。

4. 利用者アンケート 評価と改善

アンケート回収率が48.9%から60.2%へ大幅に上昇。保護者が園に関心を持ち、意見を寄せようとする関係性を嬉しく受け止めたい。
子どもの心身の発達に役に立っているか、子どもが興味や関心を持って行えるものになっているかが高評価。この2項目は職員アンケートで職員が努力している項目と重なっている。
職員内でのルールが徹底されていないのご意見複数あった。単に保護者の困りごとではなく、職員間のチームワークへの指摘と受け止め、何事も自分事として組織の一員として責任をもって行動する意識を高めたい。

5. 職員アンケート 評価と改善

社会的責任理解の評価が高かった。法、規範、尊厳を意識出来ていると回答。また利用者の権利擁護のための組織的な取り組みについても体制が整えられていると回答。不適切な言動の無いように日常の中で話題としている成果か。
重要な意思決定について決定経緯を知らされていないとの回答もあった。口頭の説明だけに留めず、周知内容は文書でも記載し、誰もが理解が深められるように、また見直す事が出来るようにする。
良好な人間関係ではないと感じているとの項目、昨年度よりも数値が低く出ている。改善策を模索したい。

1. 事業計画に基づく総括

- ・月1回実施している会議(クラス、乳児、幼児、リーダー、給食等)を受けて、その都度全職員で考えながら保育園を運営した。その際に意見を出して話し合うことで保育の振り返りや見直しをすることができた。
- ・職員間で話し合い、玩具の見直しや配置の設定を各クラスで行った。
- ・園内研修は、職員が自身で題材について調べたり、周囲に伝える努力をしたりする事でスキルアップをした。
- ・日々の子どもの様子を園児管理システムで伝えると共に口頭や写真を使って日々の様子を保護者と共有した。
- ・コロナ禍の保育園運営ではあったが、運動会や発表会をクラスごとに実施し、他の行事についても感染対策を行いながら実施した。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・幼児クラスは、コーナー設定を見直し、おままごとコーナーを設置し、子どもの遊びを広げた。
- ・玩具を見直し、種類を増やし、机上遊びが出来るようにした。
- ・乳児クラスは、環境を見直し、棚を移動し、全体を見渡して保育ができるようにした。
- ・専科の英語は、継続して実施することにより、子ども達が英語に関する興味や関心が高まった。
- ・月2回の講師による体操以外に職員による体操も月2回実施することにより、子どもの心身の発達に努めた。
- ・子育て支援は、通常の子育てひろばに追加して、出前保育として「出張☆おひさま子育てひろば」を2回実施し、地域の方におひさま保育園を知っていただいた。

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

- ・職員同士で話し合いながら保育をすすめる。玩具や環境の見直しは、その都度行っていく。コロナ禍が終息に向かいつつある為、保護者に生の保育の様子をみてもらい、知ってもらう機会を増やす。その為、参観は年間を通して実施し、より保育園の事を知ってもらう為に1日保育士体験を今年度より実施予定。
- ・通常の園内で行う「おひさま子育てひろば」と共に令和4年度初めて実施した、「出張☆おひさま子育てひろば」を回数を増やして実施し、地域の中におひさま保育園がある事が認知されるよう努める。
- ・園児管理システムが保護者にも浸透した。昨年度は、その日の様子を伝えるのみだった為、食育活動に興味を持ち、子ども達が主体的に取り組んでいる様子やつながっていく遊びや活動を追いかけて伝えていき、保護者の方にも保育園の活動に興味を持ってもらう。

4. 利用者アンケート 評価と改善

- ・園での活動内容についての評価が昨年度に続き高い。園児管理システムの写真を利用しての毎日の活動報告や日々の子どもの様子の伝達が軌道に乗っている。引き続き、続けて行く。
- ・不満、要望への対応の項目は、「どちらともいえない」が多かった。コロナ禍という事もあり、コミュニケーションが不足していた点もあった。今後、保護者会での周知方法や朝の挨拶等を含めて見直していく。

5. 職員アンケート 評価と改善

- ・職員間の連携が取りやすく、人間関係が良好との意見が多い。その為、会議等でも自由に意見が言えるとの事なので、今後も維持できるよう続けていく。
- ・休暇が取りやすいという意見も多く、休みを取得した際には全体でバランスを取って保育園を運営している。こちらも継続できるよう職員同士の連携をとっていく。

1. 事業計画に基づく総括

・体力向上(散歩・園外活動・体育遊び)を積極的に実施。
コロナ禍ではあったがクラス毎で積極的に実施し、特に体育遊びでは指導頂いた事を後日実施する。
・異年齢児交流の実施。
コロナ感染防止のため交流を図る事は難しかったが、放送機器、制作物等を使い交流を図る工夫を行った。
・自分の保育や行動、言動に対して根拠や理由を持つ。
園児の置き去り、不適切な保育、保護者対応等の問題を自分の事として捉え、園内研修等で自分の保育を見つめ直す事を行う。
・保育の質の向上。
同様に外部研修への参加や園内研修を積極的に実施する。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

・「感染症」について(養護)
年間を通して「換気」「室内消毒」の徹底を行う事で感染が拡大する事なく保育を進める事ができた。
・「安全管理」について(養護)
交通事故防止のため区の協力を頂き電柱に注意看板を設置、園児把握のため「人数確認」の徹底、園庭門アラームの設定、不適切保育に対する職員への情報提供や園内研修を積極的に行い自分の保育を見つめず機会を作る。
・「第三者評価、指導監査の受審」について
保護者の当園に対する意見や指導監査員による助言により更なる保育の質の向上に繋げる。
・「環境整備の徹底」について(養護)
室内外の整理整頓を積極的に実施し、子ども達にとって快適で安全な環境作りを行う(自動水栓に変更等)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

・保育目標の把握と実践として、子ども、保護者、職員に対し「安心・安全・信頼・協力」のもと心のこもった温かい保育の実践を行うと共に毎月の職員会議にて、理念、基本方針、保育目標の確認をしていく。
・保育の質の向上として、子どもの事を第一に考えた保育の実践と共に根拠のある保育と子ども達をまとめる力を養う。また、子ども達に対する声掛けにも注意していく。
・保護者との更なるコミュニケーションを深めること。日々の登降園時の中で積極的に声をかけていく。
・危機管理の徹底として、防災防犯、事故怪我(特に園児の行動把握と登降園の確認)、感染症、情報漏洩、園前での交通事故など危機の意識を持ち、馴れ合いをなくす。また、今年度「外壁塗装工事」を実施予定の為、登降園時や園庭遊び等、園児の把握、事故防止に努める。
・当園の特色を活かした保育園アピールの実践として、体育遊び及び日頃の活動の中で体力向上に向けた保育を進めると共に入園希望者に向けてのアピールを行う。
・近隣、地域、各関係機関との協力体制の構築として、各機関との協力体制を構築し園児達にとって安全で保護者にとって安心できる保育園を目指す。

4. 利用者アンケート 評価と改善

・第三者アンケートでは保護者に対して積極的に声をかけてきた事で信頼関係が深まった評価を頂く。しかし、全体的にはまだまだ評価が低いため引き続き、保護者との信頼関係が深まる努力を進めてい。
・「プライバシーの保護」という面では書類を裏面に伏せる、重要な話は別室で話し合う、声のトーンを落とすなど全職員で話し合い実践をしていく。
・「園児の置き去り」「不適切な保育」等保護者が求める「安心・安全な保育」を意識し、定期的な確認を行い保育を進めていく。

5. 職員アンケート 評価と改善

・有休取得や休憩時間が更に取りやすい事ができるよう職員で話し合いを設け、全員が納得し協力し合って有休、休憩をとる事ができるよう引き続き進めていく。
・「マンネリ化」や「気づかない自分に気づく」事ができるよう、当たり前だった事に目を向け、創造性(発想)や工夫を凝らし、全職員で様々な意見を出し合い保育を進めていく。
・全職員で、様々な情報共有と共通認識をもって保育をも進めていく。

1. 事業計画に基づく総括

・子ども達が安心して園生活を送れる環境を整えてきた。乳児、幼児共に状況に合わせて遊具や教材の配置を職員間で話し合い工夫した。使いずらい時は、都度配置を変え改善していった。環境を整える事で乳児は、一人遊びに集中している。幼児は、友達との関りが増え落ち着いて遊べるようになった。

・コロナ禍も緩和され、保育の内容の工夫はまだ必要だが、夏まつり、運動会、遠足、発表会等、一つの行事を皆で取り組む事ができた。行事を通し発展的、共同的な活動が多く「楽しかった」と声上がるほど充実感を味わった。行事が終わるごとに、行事を通して日々の活動も盛り上がりみせ子ども達の心の成長も感じられた。

・保護者との関わりは、職員の異動、新規採用が加わったこともあり信頼関係を築くのに時間を要すると感じた。「常に笑顔を忘れずに」「送り迎えでは、一言でも子どもの様子を伝える」など基本的な事ではあるが意識をもって行うよう努めた。コロナ禍で個人面談や保育参観ができなかった事も影響していると感じている。コロナによる事業の縮小から緩和され、保護者がかかわる行事等が実施され、一人一人の保護者に寄り添っていきけるよう今後も努めていく。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

・日々の保育の中で子ども達が安心して過ごせるよう一人一人の子どもの状況に合わせて声掛けをし見守ってきた。子どもの声には耳を傾け出来るだけ会話を楽しむように進めた。また、一緒に遊びを楽しむ共感したり困っている時には優しく援助する等関りを深める事で安心して過ごせた。

・体操、英語、和太鼓を通して新しいことに興味が生まれたり経験することで、次に向けての意欲が生まれている。大人の話聞き、次は何をするのか等、見通しを持って行動できるようになってきた。

・園での様子を毎日、写真や文書で知らせる事で保護者との会話も増え安心感に繋がっている。個人面談や送り迎え時の保護者との会話を大切にし、子どもの育ちを家庭と共有してきた。今後も継続していく。地域の方に、子育てひろばをホームページでご案内しているが利用者は少ない。今後のアピールが必要である。

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

・子ども達が安心して園生活を送れるようにと取り組んではいるが、外部研修等での学びにおいて子どもとの関りを見直す事が必要と感じた。人的、物的、時間の環境など外部研修で学び、園内研修に繋げ保育の充実に役立てたい。

・保育の充実を図るには、保育士間の連携が重要視される。又、各クラスの情報も共有することが大事と考え乳幼児会議や職員会議、昼礼時の報告を通し、職員が意見を交わしていく。クラスの先生だけでなく全職員(非常勤職員を含む)で必要なことは周知しコミュニケーションを図っていく。

・行事や日々の保育は、計画的な進め方が出来るよう改善していく。

・保護者との日常の会話を大切にし、送迎時は日常の様子を伝えていく。又、各保護者のおかれている状況を察し、要望、相談などの対応を丁寧にしていく。

・子育てひろばのアピールをし、参加していただくことで地域の方との交流を深めていく。

・危機管理においては、園児を含めての防犯、防災訓練の実施。アレルギー児の誤食の無いように努める。

4. 利用者アンケート 評価と改善

・明るく優しい先生が多い。ウェルキッツアプリで写真付きの連絡帳が見られて嬉しい。食育や体操、英語、和太鼓などに力を入れているところが良い。などの意見をもらう。良いところは、引き続き継続して対応。その反面、職員によって対応にかなりバラつきがある。荷物の入れ間違えがある。お迎え時に全体のことでなく子ども個人の様子を伝えてほしい等、伝達事項など職員間の連携が取れているのか疑問などの意見あり。送迎時の保護者への笑顔での対応と伝達事項の徹底、荷物の確認などを再度行うように職員会議で周知する。安心して頂けるよう常に笑顔を中心掛ける。

5. 職員アンケート 評価と改善

・昼礼会議での申し送りの周知。その他各種会議を通しての情報共有ができ、園全体のチームワークが強化されてきた。また、会議は、要点をまとめ報告するようにした。忙しい中でもお互いを思いやり、皆で助け合うことができている。

・子ども達の日々の安全確保を図る為に、地元警察署や消防署の実施訓練を受け、防犯防災について園内研修に取り組んでいる。研修受講の際は、報告書の回覧で終わってしまうこともあるので、受講者による報告会を今後は出来るだけ行い日々の保育の充実に図れるようにしていきたい。休憩は意識を持ち、取るようにしている。

1. 事業計画に基づく総括

令和4年度は感染症対策を行いながらの行事再開となった。行事内容を考える際、行事のための活動をおこなうのではなく、日々の保育の中での遊びや活動の中での成長過程を目的とし、内容に取り入れることとし進めた。日々の保育の延長線上に行事があることで、子どもたちの主体性を取り入れながら職員自身の目的と兼ね合わせ職員自身が意欲的に行うことができた。またそのことで行事を通して保護者にも職員の日々の保育の目的をが伝わり行事後の感想に現れていた。その根源には子どもの行動や思いを考える際、大人の見方や大人の価値観で考えるのではなく、子どもの目線に立って考えることを大切に、チームで保育を進めてきたことが重要であったと考える。

安全面に関しては門修繕・防犯カメラ増設など行うことができたが、機器に頼るのではなく、目視を重要とする。また保育活動においては、遅番・昼寝など複数のクラスで生活する際の保育について見直しを行った。引き続き、職員間で連携し取り組んでいく。

チーム保育実施のため、お互いの強みと弱みを伝え合い共有に心掛けた。また子どもの育ちについてもクラス間だけでなく全職員で共有し、協力し合うことで子ども・職員双方にとってもよかった。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・子どもの視線の先や子どもの思いに気づき寄り添うことで創り上げる安心感の輪(養護)
- ・寄り添うとは子どもの行動や思いを探る際、大人の価値観で捉えず子どもの目線に立ち考えること(養護)
- ・「今ここ」「今その瞬間」を大切に、子どものやりたい・やってみたいを実現(教育)
- ・子どもが想像した世界から廃材遊び・自然遊びに繋げ、遊びの中で10の姿に発展(教育)
- ・子育てひろば参加者が園生活の見通しが立てる内容(子育て支援)
- ・子育てひろば参加者が保育士・他の参加保護者と関りやすい雰囲気環境作り(子育て支援)
- ・在園児保護者の背景を捉え寄り添った子育て相談(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

- ・子どもが「保育園楽しい」と安心して過ごせる環境(人、物、事)を通して安心感の輪を広げていく。(養護)
- ・引き続き子どもが保育士を必要とし、保育士が子どもに必要とされる関係を作り、子どもの思いに寄り添い生活リズムを考え保育していく。(養護)
- ・子どもの視線の先、やりたい、やってみたいを実現する保育。その遊びの発展の中には子どもの育ちを考えた大人の目的と兼ね合わせ保育していく。(教育)
- ・子どもの育ちを職員間で共有し、支援が必要な子どもの育ちを伸ばしていけるようチームで考え共通理解しながら保育する。(教育)
- ・顔なじみの職員ができることで保護者が参加・相談しやすいよう子育てひろば担当職員を配置した。また出張☆おひさま子育てひろばを経験したことから若手職員も担当に意欲を示し経験者と共に配置した。いろいろな方法を取り入れ地域に根付いた子育て支援を展開できるようにする。(子育て支援)
- ・今後も在園児保護者の背景を捉え、子どもたちの成長を共有し、子育て支援を含め、共育(共に育てる)していく。
- ・園児管理システムのおたより、書面によるクラスだよりも含め、日々の保育を見える化していく。(子育て支援)

4. 利用者アンケート 評価と改善

- ・安全対策
- ・子どもたちの心情面にも配慮してくれている
- ・WEB配信有難い部分とわかりにくい部分がある。
- ・引き続き人数確認・職員立ち位置の確認を継続していく。送迎時の保護者の車利用者への声掛け・掲示を引き続き行っていく
- ・子どもの気持ちを尊重した対応・保育所での活動は心身の発達に役立っているかが満足度が高い。今後もチーム保育に心掛け、大切にしていく
- ・手紙は携帯に羅列した状態になるため、掲示や必要に応じてプリントしていく

5. 職員アンケート 評価と改善

- ・夏まつり、運動会など子どもたちが普段から楽しんでいるものを取り入れたことで職員自身も意欲的に行事のための活動でないことがよかった。
- ・気になる子に対する接し方を全体で話し合い、様々な方法を試していく。
- ・会議の在り方を考えていく
- ・行事の目的が明確となったので今後も子どもたちの目の前の成長を届けられる行事を行う。そのことで保護者にも日々の保育を伝えることができた。
- ・今後も子ども、保護者の背景を共有し、園全体で保育することを継続していく。
- ・会議目的を明確にし、時間の確保・システムの活用など職員の意見交換を充実できるよう取り組んでいく。

1. 事業計画に基づく総括

- ・保育の質を高める為に、経験別の園内研修グループでの研修を企画した。
- ・日々の保育のドキュメンテーションを作成して保護者に発信することができた。
- ・4、5歳児は自主的に自分の興味あること等について話を行う場としてサークルタイムを行った。
- ・コロナ渦の為に、小学校が受け入れが難しいとの事で交流ができなかった。
- ・子育てひろばは、地域の子育て家庭の参加が多くあった。保育所体験は、園の行事に参加してもらった。
- ・人権擁護の研修は、正規、非常勤関係なく定期的の研修ができた。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・リズム遊びは、講師が来ない時でも保育士が子どもたちとリズム遊びを楽しむ機会を多く作った。
- ・朝体操を行うことで、子どもたちが身体を動かす機会を多く設けることが出来た。
- ・英語遊びは、新しい講師だったため例年のようなコミュニケーションが取れなかったが、子どもたちは楽しんでた。
- ・子どもたちのやってみたいや知りたい気持ちを汲み取り保育を展開することが出来るようになってきた。
- ・子育てひろばは、さまざまな内容を企画し、未就園児が保育園で在園児と一緒に過ごす機会を作った。
- ・少人数で食事をする事で、子どもたちへ目が届き食事の時に声をかけたり、食べる意欲を高める取り組みができた。
- ・SDGsへの取り組みとして、食べる事の大切さや食べ物を大切にすることをそだてる食育活動をした。

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

- ・少人数での園内研修の企画、実行を目的をもって行い、一人一人の保育力が育つ研修としたい。
- ・子ども主体の保育を、職員全員できちんと学び、自園でできることをみんなで考えて実行できるようにしたい。
- ・英語遊びやリズム遊びは、講師が来るときだけではなく、日々の保育の中で職員が積極的に取り組めるように計画したい。
- ・行事においても、子どもたちと一緒に考えて作り上げる行事を考えて行きたい。
- ・子ども達一人一人が発言したり、話を聞いたりする機会(サークルタイム)を作り、保育士が子どもの声を聞いて保育を進めて行く。
- ・食育活動と通してSDGへの取り組みを進めて行く。
- ・保護者に保育を見てもらう機会、保育参加を行って行く。
- ・職員同士が、子どもの事を話しをする時間を設けて行く。
- ・職員が保育を楽しんで進めていけるように体制を整える。

4. 利用者アンケート 評価と改善

- ・昨年度に比べて全体的に評価が下がってしまった。保護者対応や苦情に対しての対応など保護者からご意見を頂いている。今年度は、保護者対応について職員間で報連相を徹底し、報告や連絡にミスが無いように改善した。園庭門の施錠出来ていないことが多く見られたので、一定時間開錠になっている場合は、アラームが鳴るように設定、開錠になっている事が無いようにした。
- ・保育の取り組みについては、高い評価を頂いているので、今年度も子どもの気持ちに寄り添い保育を進めて行きたい。お迎えの際の伝達は、必ず一人一人が子どもの様子を伝えるようにした。

5. 職員アンケート 評価と改善

- ・職員からはコミュニケーション不足や連携が弱くなってきているとの意見が出ている。今年度報連相の基準を作り、それぞれがその仕組みを基に仕事を進めていくようにして行きたい。また、残業や休暇取得については、園の状況を踏まえた上、事前に行えるような雰囲気づくりをしていく。職員が働きやすい環境を作るように意見や相談に耳を傾け、受容していくようにしていく。
- ・園全体で子どもを見るという視点は共有出来ていて、助け合う気持ちも全職員の意識も高くなっている。仕事量の多さで余裕がなくなってしまった時の対応などを考えて行きたい。

1. 事業計画に基づく総括

- ・新しい園児管理システムにより、子どもの様子が写真付きで見られることは園の活動が見える化され、保護者にも好評であった。
- ・一人一人の子どもの発達を把握するためにクラスはもとより、乳児会議、幼児会議、月末の振り返りの会議を通し、職員全体で子どもの発達を確認し共有した。
- ・臨床心理士による巡回指導で配慮の必要な子に対するアドバイスを受けることが出来たのは職員の学びと保育のプラスになっている。
- ・保育の質を高める為、書籍を使い乳児会議、幼児会議の時に読み合わせをし感想、自分の保育の振り返りなどを発表したことは職員のスキルアップとともに保育に対する心もちが変わった。
- ・外国人家庭が多い園として、お便りやルールなどの周知を翻訳機能を活用して配付したり、より丁寧な努力をしたが、習慣の違い等苦慮した。給食の宗教食対応は保護者から喜ばれている。
- ・改修工事はホールと廊下の壁紙を綺麗にしたことでより明るく清潔感のある印象を与えることが出来た。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・安心、安全な保育環境を提供することが大前提と考え、年度はじめに保育室の見直しを行った。乳児は安心して過ごせること、幼児は子どもが自分で考えて遊べることを職員と話し合いながら進めていった。乳児保育については職員達が、今までとは違う環境にしたいという思いがあり、積極的に見直しが出来た。幼児保育については小さな一歩として「子ども主体」について考える機会を会議などで出し意識するような環境にした。(養護)
- ・年間を通して保育についてより具体的に考える機会が増えたことで保育の質は高まった。玩具については、園全体で学び、各クラスで見直しをして、子どもの成長にあった良質な玩具を増やした。(教育)
- ・子どもが遊び込めるための環境作りに努力するようになったことは教育的視点からも成果に繋がった。
- ・講師による体操遊びと英語遊びも取り入れながら、やってもらって終わりではなく日々の活動に繋げ、子どもが楽しみながら経験を積み重ねられるようにした。(教育)
- ・子育て支援は参加親子は少ないがリピート率は高かった。今後は新規開拓をする必要がある。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

- ・子どもの人権をしっかりと守る保育をすることが大前提である。その上で不適切な保育にならないように常に心掛ける。そのために職場環境を作ることが「Stop the 不適切保育」になることで、「風通しの良い職場環境」になるように試行錯誤しながら進めていきたい。
- ・今年度は幼児クラスが積極的に保育環境を見直し、子どもたちが遊び込める保育室にしたいという思いでスタートをきれたので、職員の意欲を大切にしながら子どもにとってより良い保育環境を作っていく。
- ・今求められている保育について知り、子どもを軸とした保育の基がぶれないようにしていく。そして、保育者自身が「考える保育」が出来るように学びの機会を多く作る。
- ・新型コロナウイルス感染症が5類になったことで園行事と地域の子育て支援は昨年よりは多くの方に参加出来るようにしていく。そして、地域の親子のコミュニケーションの場となるように努めていく。
- ・多様な保護者がいる中での園運営は「当たり前」「常識」は通用しない場合があるので、一つ一つ丁寧に説明し、コミュニケーションが潤滑にいき、信頼して頂けるように工夫と努力をする。

4. 利用者アンケート 評価と改善

- ・園運営に対して大半の方は満足している。
- ・保育園の活動について、子どもの心身の発達に役立っていると思っている。
- ・職員の接遇、態度も高評価であるが、コメントでは職員の対応に差があるという意見があった。保護者にとって子どものエピソードを聞くことは嬉しいので、一つでも伝えられるようにする。
- ・多様な保護者で多様な要望がある中でどうしても応えられない場合がある時は丁寧に対応する。
- ・保護者からの意見はその都度速やかに対応することで信頼の積み重ねをしていきたい。

5. 職員アンケート 評価と改善

- ・保育を見直しして、子どもの姿が変わり良かった。
- ・保育を重視する職員と自分の処遇を大切にしている職員では意見の内容が違っていた。
- ・職員間の連携が取れている、取れていないという意見があり、両方について検証して、どうしたらいいのか職員間で話し合う機会を各クラス、乳児、幼児、全体などグループの大きさを変えて自分たちで考え実行出来るようにした。
- ・組織の中で一方的に指示されるより、「自分たちで問題提起をし、解決に向かう」職員組織を作るために考えていきたい。

1. 事業計画に基づく総括

- ・園内研修で職員の得意分野やスキルを相互に結び合う機会を作り、経験の浅い職員などのため組織力向上、保育技術向上に繋がった。
- ・日々健康で安全な生活が送れるよう、危険箇所や出来事を職員間で共有し危機管理意識を高めた。
- ・昼礼で子どもの微笑ましい姿や、成長を感じた姿を「ニヤリ・ホット報告」と称し、各クラスで報告し合い子どもの成長の喜びを共有したり、子どもの積極面にも着目して日々の保育に繋がった。
- ・コロナ感染症対策の緩和により交流を持つ行事や、異年齢児交流等が徐々に行えるようになった。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・各クラスで野菜の栽培をしたり、親子でひまわりを育てたりしたことで、食材や自然に興味を持ち植物を大切に育てる心が育った。(教育)
- ・子どもが主体的に活動に参加出来るよう、玩具は自ら手に取って遊び、そこから発展していけるような環境作りを心掛けた。月齢、年齢に沿った玩具の入れ替えや集中して遊べる為の工夫を行った。(教育)
- ・散歩や戸外遊びを通して、自然に興味を持ち身体を動かして遊ぶ楽しさを味わうことが出来た。(養護)
- ・子育てひろばの周知が課題となっている。案内配布の継続と参加して下さった地域の方々から広まったり、また参加したいと思える内容を検討していきたい。(子育て支援)
- ・異年齢児交流で協力して制作したり活動する事で、大きい子に憧れの気持ちを持ち活動に対する興味関心が高まった。(養護)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

- ・様々な行事がコロナ禍以前に戻っていく中、通常の保育園行事を経験した事のない職員が多いことで、行事のねらい、内容について意見を出し合いながら進めていきたい。
- ・子ども達が主体的に活動できるよう、園内研修などで年齢に沿った玩具や興味を持っている遊びについて話し合い更なる検討をしていく。
- ・子育てひろばの参加者は入園前の0、1歳児が多い為、月齢、年齢にあった内容になるよう工夫していきたい。また、保護者の方が子育ての悩み等を相談しやすい環境・雰囲気作りをしていきたい。
- ・職員間の関係の良さを、子ども達や保護者の安心感に繋げる。
- ・異年齢児交流を毎月行い関わりを深める。

4. 利用者アンケート 評価と改善

- ・降園時に子どもの様子を話してほしいと意見が多い、職員で話し合い「ひと言プラス運動」の取り組みを行った。保護者と話すことが得意でない職員もいる中、今後も継続して話す機会を増やしていきたい。
- ・保護者の意見や要望を収集しやすく為、記載用紙を全家庭に配布した。
- ・園庭門のオートロック設置の要望があり、取付を実施し保護者の安心に繋がった。

5. 職員アンケート 評価と改善

- ・職員間で連携を取り、受け持ちクラスに留まらず協力し合って保育を進めている。職員同士の関係は概ね良好であるが、意見を言い出しにくい職員もいるので様々な立場からの意見に耳を傾けていきたい。
- ・休憩時間の確保が難しいという意見もあったので、職員全員で業務の軽減等、改善出来るよう工夫し働く環境をより良くしていきたい。

1. 事業計画に基づく総括

・職員が異動等で複数入れ替わり、改めて園の事を見つめ直し、話し合ってきた一年となった。これまで大切にしてきた事は何か？今現在の状況はどうか？更に良くしていく為にはどのようにしていくか？より良い園作りが出来るよう、皆で同じ方向を見て進むことが出来たのがとても良かった。

・子どもの気持ちを受け止め、丁寧に寄り添う様心掛けてたが、職員の対応の仕方や言葉がけに対し、ご意見を頂く事もあった。真摯に受け止め、しっかり話を聞き、職員と一緒に考え改善に努めた。

・園生活の様子が伝わる様、日々のおたより配信やクラスの活動写真の貼り出し等をこまめに行った。また、保育参観や個人面談、保護者会は、人数制限をしながら、実施出来、喜びの声を頂いた。特に年度末の保護者会では、写真や動画で1年間の様子をまとめ、職員・保護者共に成長を喜び合う良い機会となった。

・施設の安全面では、施設や保育室内の環境設定において、再確認を行い、職員の意識向上に繋がった。又、災害用の備蓄品の置き場所や訓練内容も担当職員を中心に見直し、改善する事が出来た。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

・安全で、子どもが快適な場所となるよう個々の理解を深め、寄り添った関わりが出来る様に努めた。アタッチメントに関する研修は、乳幼児期の重要性を再確認する良い機会となった。

・子ども達の興味関心が深まるよう、環境設定や手作り玩具に力を入れた。特に年長児クラスでは、様々なごっこ遊びを子ども達主体に展開した。子ども達の想像力や、子ども同士が意見交換をしながら形にしていく姿から、小学校に向けて様々な面が育っている事を実感した。又、自己肯定感が高まる様な大人の関わり方の大切さも再認識する事が出来た。

・子育てひろばは、参加者も次第に増え仲間作りの場にもなっていた。在園児との交流も深まり、園見学に繋がる等、園を知ってもらう良い機会となった。

・療育に通う園児には、療育先の機関と定期的なリモートでの打合せや園訪問などで連携を取りながら、保護者と共により良い援助が出来るよう取り組んだ。

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

・施設の安全面の見直しとして、園庭門の交換を行う。門の位置をずらすことにより、駐輪スペースも少し広がるため、混雑緩和にも繋がる。又、園の前の道路は交通量が多いため、園庭フェンスにメッシュのシートを取り付け、子ども達がより遊びに集中しやすいように配慮する。

・子ども達の気持ちや保護者の思いに寄り添っていけるよう、理解を深め、丁寧な対応を心掛ける。クラス会議やリーダー会議等を必要に応じて行い、状況に合わせた見直しを重ねる。一人ひとりを認め、自己肯定感が高まるような関わりを心掛けると共に、職員同士の情報交換を密にし、共通理解をしていく。

・子ども達の興味関心事をキャッチし、遊びが深まるよう、環境構成に力を入れる。

・職員は、自分の保育・クラスの保育の振り返りを、日々丁寧に行う。

4. 利用者アンケート 評価と改善

・理念や目標、第三者委員の存在が分かりにくいと言うご意見が多かったため、毎月の園だよりに園目標を載せ、保護者会資料等にも明記し、口頭でもしっかりと伝えて行く。又、様々な行事に第三者委員の方をお招きし、保護者とも接点を作っていく。

・職員の体制が厳しそう、というご意見も頂いた。非常勤職員の配置や時間、仕事内容の見直しを行い、合同時間でも、保護者の方に安心して頂けるよう改善する。

・異年齢児交流等も行いながら、園での活動が更に楽しく、心身の発達へと繋がる様に工夫していく。

5. 職員アンケート 評価と改善

・職員体制についてや、休憩の取り方等に関しては改善を求める声が多かった。年度が変わるにあたり、職員からの要望や意見等を入れるボックスを用意したところ、現場の声を確認する事が出来た。新年度のスタートと共に、全職員で意見を共有し、一つひとつ話し合い、皆で改善案をまとめた。休憩に関してや会議のやり方、細かい内容まで一緒に考えた事で、居心地の良い環境となるよう見直すことが出来た。今後もより働きやすい職場作りに力を入れていく。

1. 事業計画に基づく総括

・安全面に配慮し、門の鍵や怪我に繋がる箇所(point)の点検を行い環境を整備した。遊びを通して子どもたち自身が他児との距離感覚や危険に対する意識が持てるようになって来た事も、進級当初に比べ怪我は減った。

・自動水栓化やサーキュレーターを使用する際の感染症対策を講じながら、保護者の方が安心して子どもを預けられるよう配慮した。

・日々身体を動かす機会を設けるよう心掛けた。異年齢交流を再開することをきっかけに、他クラスの活動にも互いに目を向けるようになる。運動遊びを通しての子どもたちの変化等、園全体で共有する時間を持つようにしていきたい。

・感染症の流行、少子化や保育士の不適切な対応等メディアで取り上げられる中、職員は目の前の子どもや事柄に向き合い保育を行ってきた。従来の園と外部との関係が閉塞的な中、園での取り組みを保護者の方や地域に発信する大切さを感じた。又、保護者の方も様々なストレスを抱えており、「安心・安全」である事が基盤となる事を改めて感じる。保育園が子ども、保護者、地域の方にとって安らぐ場でありたい。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

・子どもたちの気持ちを受け止め、集団活動に於いての参加の仕方を職員間で意見交換しながら試行錯誤し、保育に当たった。周囲の大人を環境と捉え、職員の思考が子ども達の物事の考え方に影響している。保育士自身が互いを受け入れ、その姿やふるまいを子どもたちが見る中で、自然と多様性を感じたり安心して自己表現出来るようにしていきたい。

・活動のねらいを記載した各クラスの活動の一場面を掲示した。担任の思いを保護者に伝えると共に、職員が子どもの心身の発達を意識する事にも繋がっている。継続して行いたい。

・子ども発信での遊び(活動)が不十分と感じる。子どもが何に興味を持ち、何を求めているか保育士自身が感覚を研ぎ澄まし、発見や自身の力で作り出す事の楽しさを十分に感じられるようにしたい。

・子育てひろばに関して、担当が変わる事による一貫性の無さが課題と感じた。子育て支援を意識し、遊びの機会を設けるだけでなく、参加した保護者の方同士の関わりや、担当職員の連携を図り内容も見直したい。

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

・保育園目標について意見を交わし、職員一人一人が力を発揮する事が重要と思われる。その為に子ども主体の保育や異年齢の交流も含めた園全体の保育の在り方について改めて考え、目指す子どもの姿のイメージを共有し、保育していく。

・身体を動かす事の心地良さを感じながら、食に関心を持ち、健康な心と丈夫な身体づくりを心掛ける。職員間で情報交換をし、発達に応じた運動遊びを取り入れていく。保育士自身が食に携わり関心を持ち、その面白さや楽しさを伝えていく。又、社会に目を向け、「SDGsを踏まえた安全で安心なおいしい給食の提供」の取り組みを通して子どもたちがSDGsに興味を持つきっかけ作りにつなげる。

・園日より、保護者会、保育参観・参加等を通して保護者と一緒にお子さんの成長を見守る姿勢を心掛ける。保育士が成長に気付いた具体的な出来事や姿を伝えていく。

・子育てひろばを見直し、地域の方と保育園との結びつきを深める。

4. 利用者アンケート 評価と改善

・保育園運営の理念や苦情解決の方法(第三者委員)に関しての周知、認識が不足していた。今後も繰り返しお伝えしながらご理解いただくように意識する。

・年度当初、職員の異動や感染症対応等保護者の方で不安を感じる方がいらっしゃる様子であった。感染対策の緩和と共に、園の様子を観る機会が出来るようになり、可能な限り行事等の参加や写真掲示等で保育の様子をお伝えした。今後は保護者会等、直接保護者の方と話す機会を大切に、一方通行では無く思いが行き交うように心掛けたい。

5. 職員アンケート 評価と改善

・職員関係が良好との意見が多かった。異動による職員の入替わりがあるが、引き続き意見交換がしやすい職場環境作りを心掛けたい。

・良いと思う点で「子どもの為の保育」や「子ども・保護者の思い、気持ちに寄り添って保育している」との意見があった。職員の思いを大切にしながら、園の強みとして出す事が出来るようにしたい。

・研修の機会を増やして欲しいとの意見があった。個々の希望を踏まえ、法人研修、園内研修、外部研修のバランスを考慮しながら取り入れていきたい。

1. 事業計画に基づく総括

・新型コロナ等、感染症の状況に臨機応変に対応しながら、子ども達の為に出来る事は何かを職員同士で話し、試行錯誤しながらも前向きに保育に取り組む事が出来、子どもの遊びの充実に繋がった。又、子どもの楽しむ姿を見て職員の更なる意欲にもなっている。

・「子どもの気持ちに寄り添う保育」では、一人一人の育ちや発達の違いを理解し向き合う姿勢があるが、配慮の必要な児の増加傾向もあり余裕がなくなる一面もあった。園全体での協力体制を作っていくことが今後の課題である。

・コロナ禍で行えなかった保育参観を実施し、保護者の保育活動への理解や安心に繋がった。クラスだより等でも保育の取り組みや子どもの状況を具体的に知らせられるようにし、保護者と子どもの姿を共有できるよう努めた。

・会議や園内研修では会議の持ち方を見直し、クラス会議では必要に応じて非常勤職員も含めて話し合いをすることで保育をより深く考えられるようになった。しかし、発言をする職員に限られる面がある為、発言しやすい雰囲気作りと職員からの気づきを引き出す工夫が必要である。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

・子ども一人一人の生活や発達の状況に配慮し、子どもの思いを汲み取り丁寧に関わることを心掛けた。

・特に配慮の必要な児等に関しては、日々の報告や職員会議等で状況を報告、職員間で対応を共有しながら関わることで、落ち着いて生活や活動ができるようにし情緒の安定となっている。

・職員が子どもに経験させたい思いを保育に積極的に取り入れることで子どもの興味・関心となり、活動の発展や行事へと繋がっているが、子ども主体の保育には理解が不十分な面もあり課題が残る。

・クラスごとの活動が中心の生活から、少しずつではあるが異年齢で交流し遊んだり行事を行えるようになり、思いやりや憧れの気持ちを持つ良い経験となっている。

・子育てひろばでは、参加者の方と交流し保育園を知って頂く良い機会になった。

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

・コロナ禍から通常へと戻る中で、保育活動や行事の取り組みについて、「子ども主体の保育(行事)」「子どもに寄り添う保育」とはどういうことかを園内研修等で話し合い共通理解を図り、日々の保育に繋げていく。子どもが興味・関心を持っている事、夢中になっている事を見極め、子ども主導の遊びが発展し充実する保育を目指す。又、異年齢での交流も増やし、刺激を受け合うことで思いやりの気持ちを育てていく。

・乳児保育では保育室の環境を見直し、引き続き少人数での保育を心掛け家庭的な雰囲気作りをすることで子どもの情緒の安定を図っていききたい。

・会議や園内研修では、会議、研修の方法や内容を見直し、誰でも思いや意見を出し合える雰囲気作りをし、保育内容に関する事や、危機管理、子どもの人権等については特に共通理解が出来るように努めていく。

・保護者対応では日々のコミュニケーションを大切にして、一人一人に合わせた対応をしていくようにする。保育の取り組みの意味等を丁寧に知らせる工夫をすることで保育活動への理解に繋げ、子どもの成長を共に喜び合える関係を目指す。又、子育てひろば等地域との交流を増やすことで、地域の中の保育園である意識が持てるようにする。

4. 利用者アンケート 評価と改善

・職員が穏やかで優しいという好意的な評価が多いが、連絡のみで日中の様子がわかりにくいという意見もある為、登降園時に日々の様子を丁寧に伝えると共に、写真等も利用し掲示や保護者アプリ、おたより等の情報発信の仕方を工夫する。

・通園門等の安全管理に対する意見が多い為、日々の安全点検に加え、保護者会や掲示、声掛け等で対応しているが定着が難しい。門の開閉に対する更なる理解と協力を引き続き行い、設備の安全強化も検討していく。

・散歩に行く機会が増えた。又、園庭だけでなく、2階テラスや園に隣接した公園も活用し、身体を十分に動かす活動ができるように工夫している。

5. 職員アンケート 評価と改善

・職員間の関係が良く、休憩や休暇が取りやすいという声が多い。一方で異動職員が多かった為、園による考え方や対応の仕方等のずれに戸惑う意見が多かった。職員同士のコミュニケーションを大切にし、全体で話し合ったり再確認し合いながら共通理解を図っていった。園対応のマニュアルがあると分かりやすいという意見がある為、園内マニュアルの整備をしていく。

・職員体制が厳しくなる傾向にあり、会議や園内研修の仕方に工夫が必要になっている。各会議等の目的を明確にし、必要な話し合いを充実して行えるようにする。

1. 事業計画に基づく総括

- ・感染症に対する国や自治体の動向に注視しながらその都度、園生活や行事等を職員と相談しながら行った。今、出来る中で可能な限り子ども達や保護者、職員が楽しめる取り組みとなるように心掛けた。
- ・園児管理システムについては操作方法など保護者に丁寧に説明し導入直後の混乱がないように努めた。登降園時に読み取るQRコードは掲示以外での工夫もした。保護者とのコミュニケーションにも効果があった。
- ・机、椅子、保育室の仕切り棚など、経年劣化により安全面に不安のある物は買い替えを行った。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・子ども達の日々の生活の中での動きを考慮し玩具棚やコーナーなどの配置を見直し、心地良く過ごせる工夫をした。
- ・SDGsの取り組みとして、食べ物に興味を持ち給食の残食の軽減につながるように野菜の栽培を楽しんだ。
- ・近隣の公園にあるバイオネスト(区が取り組んでいる腐葉土作りの場所がある)に落ち葉を入れる体験をした、その後も気になり継続して散歩の時など様子を見に行っている。
- ・廃材等を利用した物づくりを楽しんだ。空き箱など資源を大切に作る気持ちに繋がっている。
- ・プールの着替えが始まる時期に合わせて5歳児に対してプライベートゾーンについての絵本を読んだ。保護者会での絵本を実際に見て頂いたが、特に女児の保護者には関心が高かった。
- ・子育てひろばの内容を見直し充実を図った

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

- ・子ども達の遊びが広がる、夢中になれる環境や関り、豊かな経験、引き続き安心・安全で心のこもった保育の実践。・豊かな経験、遊びを通じて自らが育とうとする力を支援する(やってみたい気持ち、興味のあること、沢山の発見を楽しむ)
- ・日々の生活の積み重ねを大切に、行事等では子どもも職員も一人一人が自分の成長を感じ達成感を得られるように取り組む。
- ・園内、外部の研修や職員同士で保育を語り合える場を持ちながら、各年齢に応じ羞恥心に配慮した関りや子どもの扱いについて考えていく。
- ・園外で行う子育てひろばの取り組み(参加者も楽しめて、職員の経験の場となるように)

4. 利用者アンケート 評価と改善

- ・保育園での子どもの一日の様子を知りたい、と言う声には口頭での伝達以外で園児管理システムアプリを使って写真を見られる事が好評。今後もアプリと口頭でも子どもの様子を伝えていく。
- ・行事の変更について様々なご意見を頂いている。運動会を小学校の校庭で実施希望が多い。夏まつりの保護者参加を希望する声など。経緯を丁寧に繰り返し説明する事と、出来る事を工夫する事で、各行事に満足して頂けるように努力していく。夏まつりは、今年度「前日祭」を企画し、降園時に神輿の練り歩きを見て頂く事にしたことで、保護者からは楽しみにしているという声が出ている。

5. 職員アンケート 評価と改善

- ・子ども、クラスの様子を全職員が共有でき、クラスの悩みや聞いて欲しい事を話せる場があると保育のヒントや気持ちが少し楽になると言う声に昨年度途中から定期的に話が出来ると場を設けた。月反省という名前ではあるが、堅苦しくなく、子どもの事、保育で悩んでいる事など参加した職員皆で解決に向けて話せる事は良い取り組みだと感じている。今年度も継続して行きたい。

1. 事業計画に基づく総括

- ・異動職員が多かったこともあり、初心に戻り子ども一人一人に響く保育について乳児・幼児会議を通して共有しながら把握に努めた。(保育の質の向上)
- ・第三者評価利用者アンケートを受審し、保護者のニーズを把握し、子どもの主体性を大切にしながら、子ども自身の行動が学びに繋がる様、心掛けた。(保護者のニーズに寄り添う)
- ・家庭での子育て環境が異なる中、個々の家庭に丁寧に寄り添い支援に繋がるよう関係作りを心掛けた。(子ども一人一人の特性を把握、対応する)

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

- ・心身共に元気に遊び過ごす事を目標に、子どもの思いに寄り添いながら、戸外活動を積極的に取り入れた。戸外で感じる解放感や思い切り体を動かし遊ぶことで食べる意欲や規則正しい生活リズムの基盤作りとなり、子ども達の情緒の安定へとつながった。(養護)
- ・行事の取り組みを通して、疑問や感動、意欲を大切にしながら進め、目・耳・脳・手・足を刺激することで五感の発達へとつながった。(教育)
- ・「思いやり」の文言を職員皆が理解し保護者支援に繋がるよう心掛けた事により、保護者とのコミュニケーションがより深くなり、安心感となった。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

- ・異動職員が加わり、職員間で良い刺激となり学びが増えつつある。職員自らが体験を通して、保育する楽しさを感じながら、子どもの発達に目を向けた保育が展開できるように研修に参加し学んでいく。また、子ども達が安全・安心で過ごせる環境を作るためにも危機管理のマニュアルなど、再度、全職員で確認・共有し意識を高めていく。
- ・子ども達一人一人の特性を把握し、受容と応答的な関わりを大切に保育を行う為に、子どもの心に寄り添う保育や「不適切保育とは」を改めて全職員で学び共有し、会話や言葉を大切に保育を心掛けていく。
- ・家庭との連携では関係機関との繋がりが増えつつある。保護者の状況を把握しながら保護者の立場で、寄り添いサポートを行って行く。また、園内の見える化を進め、園での様子を見て状況を理解していただくことで安心感が持てるよう、行事の工夫や情報の発信、園内掲示等の充実を図っていく。

4. 利用者アンケート 評価と改善

- ・利用者アンケートは満足度が高く、「優しく丁寧な対応している」「成長に合わせたイベントがあり本人の良い刺激となっている」等、意見があり、職員や園に対する信頼感が伺えた。また評価を頂いたことで職員の意欲となっている。今後も継続していきたい。
- ・職員の対応にて偏りがあるとの意見が聞かれ、今後も誰もが心地よいと感じる対応について、職員育成に努めていきたい。
- ・施設面で、安心、安全な自転車置き場の設置や園の見える化を希望する意見が多く、今後、検討し進めていきたい。

5. 職員アンケート 評価と改善

- ・行事を通して職員間で学びが生まれ、また、反省を共有する機会の時間を確保したことで、全職員での今後の行事計画に繋がったと感じる職員が多かった。また、異動職員が加わった事で、固定概念を外した保育のアイデア等、刺激となり、新たに良い関係作りとなった。
- ・施設面での修理が必要な場所も多く心配の声も聞かれる。今後も職員と共に長期計画を立て、保育のし易さ、安心・安全な環境作りを心掛けていく。

1. 事業計画に基づく総括

・コロナ禍での保育や日常に慣れることもなく日々刻々と変わっていく状況に保護者、職員ともに対応に迷うこともあったが、子どもの為どんなことができるか、どのような働きかけが必要か、大切なのか考える機会も多々あった。職員一人一人が考え、皆でできることは一緒に取り組み課題に向き合い検討を進めた。その中で子どもの人権や虐待などの関する知識を園内研修を通し認識理解を深め、各家庭の状況の把握や子どもに接する姿勢、保護者対応など丁寧に行い子どもの育ちを共に喜びあえる関係も構築した。

・保育、行事の在り方など、園全体の事として捉え職員と一緒に課題を見出し検討、実行できるよう「元の保育に戻れるよう保育を考える」という課題が上がった時、行事の実施や保育の中で「元の保育、行事の取り組み」がわからない職員も多数いることがわかった。物事の確認や共通認識をさらに丁寧に行うことが必要であると感じた。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

・感染症が流行する中で、職員が子ども一人一人の発達や成長の状況を把握し、気持ちに寄り添い安心できる環境を整え過ごせるように清掃、消毒の継続と手洗いやうがいなどを丁寧に励行した。(養護)

・年齢に見合った保育活動ができるように、クラス他各種会議など丁寧に行った。1～3期までは学年ごとや行事も縮小し異年齢児が関わることも多くはなかったが、4期に入り、十分に感染予防に努め、状況を見ながら幼児3学年の異年齢児交流に力を入れ、年長児が自発的に名付けた週1回の異年齢児交流の「おひさまの日」、毎月の異年齢児グループで過ごす「なかよしデー」を進めた。また幼児と乳児が様々な日常で触れ合えるような時間を作った。(教育)

・個人面談や朝夕の送迎の際に子の様子を保護者へ伝え、保護者の話を伺い信頼関係が築きあげられた。

・子育てひろばも感染予防をしながら予約制で行ったが、数名のリピーターも付き、入園に繋がった。また園外にて出前保育を行う取り組みを試験的に行った。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

・各家庭や子ども達の発達などを各種会議にて共有し、子どもの課題を認識し、同じように接することで、その子に見合う環境が整えられた。今後も職員間の認識が共有できるように図るとともに、子どもの人権や権利など年間を通し職員間と学びあい、個々に沿った支援を行いながら、子どもの情緒の安定、自己肯定感や愛着関係を築いていけるような保育を行う。

・子ども達が自分の好きな遊びを、じっくりと楽しめる環境構成や友達や異年齢児との関りを大切にし援助、仲立ちを行う。

・各家庭の状況を把握し、その状況に合わせた保護者支援を行う。また子育てひろばの内容の充実や周知を行っていく。

・職員の協働性の構築とチームワーク向上と強化へ繋いでいく。

・SDGsの取り組みについて職員が意識を持ち実践、子どもと共にできることを積極的に取り組んでいけるようにする。

4. 利用者アンケート 評価と改善

・朝夕の送迎の際の保護者への申し送り等、職員により対応が違うというご意見をいただき、職員会議を行い、一人一人が意識できるように取り組んだ。その結果、保護者から「他のクラスの先生も子どもの名前を覚え伝達や遊びの様子を知らせてくれる」というご意見も増えてきた。職員の意識の向上を継続して取り組んでいく。また気持ちの良い挨拶を全職員ができるように周知していく。

5. 職員アンケート 評価と改善

・休憩に関して、取れない、クラス、人によるという意見も出ているため、リーダー層会議にて、各クラスの現状や改善方法を検討した。クラス単位ではなく、全体に目を向けられるように工夫をしているが、状況により難しいこともあるので、今後も職員で検討していきたい。

・各種会議の重要性を職員とともに理解し、実施方法や内容の検討、社会人としての挨拶やマナーの理解と実践に努める。

1. 事業計画に基づく総括

・職員は園目標を意識した保育を心掛けており、クラスだよりの中で園目標にちなんだエピソードを記載することで、保護者にも浸透している。トイレを掃除している職員に子ども自ら「いつも綺麗にしてくれてありがとう」と伝えてくれたというエピソードもあり、年長になるとどんな場面で「ありがとう」と伝えるのかも理解できるようになる。

・指示命令ではなく、子ども一人一人の声を聴くことで寄り添う保育を展開していくよう心掛けているが、生活の中で集団を意識せざる得ない場面では、どうしても指示が増えてしまう。

・危機管理意識を高めるため、幼児安全法支援員資格講習を受講する予定であったが、コロナの為、思うように受講できなかった。しかし、園内でヒヤリハットの取り組みを充実させ、日々の危機管理に努めた。

・保育環境を整えるところは、クラスによって差が出ていた。その中でも年長の子ども達の成長は著しく、自分たちで考え行動する生活が多く見られていた。

・発達支援コーディネーターの資格を持った職員が異動となった為、園を訪問する臨床心理士から日々の保育のアドバイスをいただいたり、法人の必須研修で学んだり、支援が必要な園児の理解は深めることが出来た。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

・乳児は子どもの気持ちを保育士が代弁し、幼児は子ども達と対話を心掛けることで信頼関係を築き、安心して園内で過ごせるようにしたところは、職員一人一人が特に気を付けた点である。子ども達も、クラス担任だけでなく、他クラスの職員にも親しみを持って安心して過ごしている。(養護)

・日々の子ども達の姿から保育環境を整えるよう、クラス会議を充実させた。子ども達にとっての学びは「遊び」であるため、クラス担任が子ども達の遊びに注目しながら会議を進めるようにした。中には、子ども達のマイナス面に注目してしまうケースもあり、会議の内容の見直しが必要な場面もあった。(教育)

・子育てひろばを再開出来るようになり、取り組み方を見直した。同じ職員が担当することで、参加者が相談しやすい環境を整えた。そのため、発達面での相談をする方がいたり、リピーターも増え入園に繋がったケースもあった。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

・養護については、子どもの人権についてや、職員全員が同じ方向を向いて保育が出来るよう1冊の本について学ぶ等、職員同士の対話が出来ると取り組みを増やしていく。また、自分の保育の振り返りが明日の保育へ反映されるよう、学びや気付きの多い充実した会議の取り組みをしていく。

・教育については、職員自身がワクワクする毎日を過ごせるよう働きやすい職場の環境を整え、その中で保育、子ども、保護者について等、相談や語り合える場面を増やしていく。最終的には、子ども達の学びの機会でもある「遊び」についてや、そのために必要な環境について、考えられるチーム作りをしていく。

・子育て支援では、昨年に引き続き子育てひろばを盛り上げていきたい。園のファンを増やすため、また、地域の方の集いの場として利用しやすく相談しやすい取り組みをしていく。

4. 利用者アンケート 評価と改善

・アンケートからは、「不満や不安点はなく満足しています。」等、園への信頼と感謝を寄せる声が多く、3項目の質問に対して100%の回答もいただいている。職員が日ごろから丁寧な保護者対応をしていることが、高評価の結果に繋がっていると感じる。更に安心して通っていただくために、より丁寧な保護者対応を心掛け、保育や危機管理面をより詳しくお知らせすることで、透明化を図っていく。

・回答率の低かった項目内容については、周知の仕方を変えるなどして知らせていく。

5. 職員アンケート 評価と改善

・良い面がたくさんあると感じている反面、個々ではそれぞれ改善したい部分があると感じていることが結果からわかる。それぞれ個人の思いであるため、職員一人一人と対話時間を多く持ち、その中で解消していきたい。

1. 事業計画に基づく総括

・コロナも徐々に緩和されたので、感染対策を進めながらも、子どもたちの『やりたい』という気持ちを大切に様々な体験や経験を積めるように、保育内容を工夫した。そのためにも子ども達一人一人の声を聞き気持ちを受け止め丁寧に関わることができた。

・遊びこめる環境と遊びの継続をねらいとし、季節に応じた戸外遊びや発達に応じた室内玩具など、子ども達の興味や関心を広げ想像力を養えるようにした。子どもたちの発想の展開には目を引くものもあり、遊びの場が学びの場となった。

・英語遊びは子どもたちが大変興味を示し、毎回楽しみにしている活動の一つである。異文化との触れ合いを良い形で進めることができた。またその成果を保護者の方にもお伝えする機会を持つことができ、園の様子の一部ではあるがご理解頂けた。

・保護者支援に関しては、日々の送迎時を基本に個人面談・保護者会などを通して十分にコミュニケーションをとり信頼関係の構築に務めた。また『迅速・丁寧』をモットーに保護者対応を進め園と家庭とで手を携えて子どもの育ちを支えた。

2. 保育内容(養護、教育、子育て支援)総括

・職員と情報共有しながら、子ども達1人ひとりの気持ちを受け止め、安心して保育園生活を送れるように、人的環境と物的環境を常に考えて、保育を進めた。(養護)

・季節を感じられるよう、自然に触れる機会を設け、経験を重ねていった。子どもの考えや意見を聞き保育を進めたことで、主体性が向上した。(教育)

・各クラス運動遊びを積極的に取り入れたため、体力は向上し、コロナ渦での保育の工夫ができた。今後運動遊びの幅が更に広がる配慮は必要である。(教育)

・在園児と地域の子育て支援の双方を実施。地域的なのか事情を抱えている家庭が複数あるため保護者の気持ちに寄り添い、共に育てることや子どもの成長を喜び合える関係性を大切に保護者支援を進めた。(子育て支援)

・在宅支援の一環として実施している『おひさま子育てひろば』ではコロナが緩和され、対面での実施が可能となり参加者も定着。ホームページで予定をみて参加している在宅家庭も増えた。育児相談の時時間も設けたり、保育園の体験が出来るばとして、継続的に行った。(子育て支援)

3. 総括を受けて、今年度の活動への展開

・宇喜田おひさま保育園開園と同時に新型コロナウイルス感染症に見舞われ、様々な活動に制限がかかり、園児・職員・保護者も改めて考えさせられる機会となった。令和5年度には、感染症が5類になり、緩和が見込まれるため改めて、法人の基本理念の『養護』『教育』『子育て支援』を紐解き、年度ごとに見直しをかけながら、持続可能な保育園運営を進め、徐々にコロナ渦前に戻せるよう、園の発信にも工夫を凝す必要がある。また、大きな変化が生まれる年であることを想定し、柔軟に対応出来るよう、職員間の情報共有とスキルアップが更に必要になるため、江戸川区が作成した保育の質のガイドラインを元に内容の理解と実践を目標にする。また、法人の目指す、安心・安全・安定的な保育園運営を目指すと共に、クローズアップされている、不適切な保育に関しても、丁寧な関わりと、信頼関係の構築を積み重ねることの重要性と子ども一人一人の人権について意識することを忘れずに保育をする。

4. 利用者アンケート 評価と改善

・お迎え時の伝達が何も無い、職員によって対応が違うとの意見について、伝達がない場合もその日の園での生活や遊びの様子、担任以外が対応するのであれば、自分が関わった時間帯の様子を伝える。

・行事の日程が早めに知りたいとの意見について、年間行事予定表を配布しているが、令和5年度は早めに配布することにより、保護者が行事に参加しやすいようにする。

5. 職員アンケート 評価と改善

・会議が多く何が大事かわからないとの意見について、職員会議、給食会議、月反省以外の会議は、職員の共通認識および情報共有を目的に行ってきた事もあり、職員と検討した結果全員に周知したいものや、検討事項がある際には必要に応じて、リーダー会議や乳幼児会議を開くことにした。